### 成城大学研究機構

## 治療的司法研究センター

### 外部評価報告·活動報告





2024年6月



### < 目 次 >

はし	ごめに:	センター設立の経緯など		•	• •	•	• •	•	• •	•	•	•	•	•	•	•		4
1. 2.	外部評 外部評	価日程				•		•		•	•	•	•	•	•	•		6
3.	外部評	価の方法																
4.	評価																	
第 2	2部 活	動報告(2017~2023年度)																
1.	組織と	人員	• • •			•		•		•	•	•	•	•			1	4
2.	予算		• • •			•		•		•	•	•	•	•			1	7
3.	設備関	係	• • •			•		•		•	•	•	•	•		•	1	8
	(1)	センター研究・執務スペース																
	(2)	センターの備品類																
	(3)	センター所蔵書籍等																
4.	ロゴと	コンセプトアート	• • •			•		•		•	•	•	•	•		•	2	0
	(1)	センターロゴ																
	(2)	配色																
	(3)	ロゴのコンセプト																
	(4)	コンセプトアート																
5.	広報活	動	• • •			•		•		•	•	•	•	•		•	2	3
	(1)	ホームページ (2)パンフ	レット															
	(3)	クリアファイル (4)封筒類																
	(5)	ノベルティ(ボールペン、Tシャツ	/、ポロシ	ノヤ	ツ)		(6	) .	バナ	۰.	. (	横	断	幕)				
	(7)	スタッフ名刺 (8) ジャーナ	ル投稿国	宣伝	広告	-												
6.	研究活	動	• • •			•		•		•	•	•	•	•		•	2	7
	(1)	研究活動の概要																
	(2)	活動日誌																
	(3)	所属メンバーのメディア等登場																
7.	研究成	果	• • •			•		•		•	•	•	•	•			5	2
	(1)	刊行物(治療的司法ジャーナル)																
	(2)	所属メンバー業績一覧																
	(3)	所属メンバー学会報告一覧																
	(4)	所属メンバー獲得研究費一覧																
8.	社会還	元				•		•		•	•	•	•	•			7	2
	(1)	センター主催公開イベント																
	(2)	YouTube チャンネル																

	(3)	社会人向け講座(「成城学びの森」出講)
	(4)	弁護士会・他大学での講演等
9.	その他	
	(1)	規則等
	(2)	ジャーナル投稿規定

はじめに: センター設立の経緯など

2024年6月 治療的司法研究センター長 指宿 信

#### (1)治療的司法研究センター設立の経緯

本センターは、2016年に科学技術振興機構において採択された「多様化する嗜癖行動をめぐるトランス・アドヴォカシー・ネットワークの構築とその理論化」(代表:石塚伸一・龍谷大学教授(当時))(以下、プロジェクトと略)において、「理論構築サークル」部門(責任者:指宿信・成城大学教授)の研究調査・開発等の活動を推進するため、成城大学に専門の研究機関を設立しようと企図したことが出発点である。

上記研究プロジェクトは、様々な嗜癖依存行動の当事者を支援するアドヴォケイトを束ね、多層的複合的に問題解決を推進できるような環境作りを目指すものであった。そこで、そうしたミッションを実現するため必要とされる専門研究機関を具体的に検討したところ、嗜癖依存行動を持った当事者が罪を犯した際に、通常の刑事司法のように処罰を求めるのではなく、その人が抱える問題に目を向けてそうした問題の解決を導くことで再び罪を犯すことを防ぐことを目的とした、海外で普及を見せている「治療的司法」あるいはそうした司法観を支えている「治療法学」という理論の研究と調査を実施する専門機関をこの国でも必要としているという結論に達し、本学においてこれを設置することとなった。

#### (2) "治療的司法"の意味

治療的司法とは英語の therapeutic justice の訳語である。刑事司法制度について罪を犯した人に対して「刑罰を与えるプロセス」と見るのではなく、罪を犯した人が抱える「問題の解決を導き、結果的に再犯防止のプロセス」と捉えようという考え方、すなわち治療法学(therapeutic jurisprudence)に基づく司法観を指す。

既に諸外国では、こうした考え方に基づいて実際の刑事司法がデザインされていて、そうした裁判制度は「問題解決型司法(problem solving court)」と呼ばれている。具体的には、薬物依存症者を対象にした「ドラッグ・コート(Drug Court)」や精神障害犯罪者を対象にした「精神衛生コート(Mental Health Court)」、DV 加害者を対象にした「DV コート(Domestic Violence Court)」などが有名である。

罪を犯した人の中には法律で禁じられた行為に至るまでに、その生活で何らかの原因(各種の依存症)や生活上の問題を抱えている場合が少なくないため、そうした原因・問題を除去することができなければ犯罪を繰り返す"再犯"に容易に至ってしまう。海外の問題解決型裁判所では、起訴された被告人に問題解決のための取り組み(治療や学習、回復訓練等)を課し、それをクリアできれば処罰をしないという新たなルートを構築し、刑罰によるスティグマ(らく印付け)や社会的孤立といった負の効果を回避して、再犯を防ぐ施策が20世紀の終わり頃から広がっている。

#### (3)治療的司法研究センターの活動目的

本センターはこうした治療的司法 therapeutic justice や治療法学 therapeutic jurisprudence について調査や研究を専門に実施するわが国で初めて設立された研究機関である。

センターは、治療的司法の考え方に賛同し共通する価値観を持った多様な専門家、問題解決支援者や依存症離脱支援者等の個人や組織と連携して、ネットワークの構築を進めながら、多様な問題一依存(嗜癖や嗜虐)、孤立、疎外、障害等一を抱える人々が罪を犯すことなく社会生活を営むことを可能にする司法制度や法制度の調査研究を進め、社会にとって有益な成果を発信・還元することを目的としている。

#### (4)治療的司法研究センター設立後の歩み

2017年4月、治療的司法研究センターは、成城大学研究機構第二種センター(ひとりセンター)として発足した。活動資金は前述の科学技術振興機構の助成金であった。その後、2019年に同助成金による活動が終了した後、科学研究助成金基盤(A)「脱刑事罰処理を支える「治療法学」の確立に向けた学融的総合的研究」(代表:指宿信・成城大学教授)の研究助成を資金とし、2021年4月に成城大学研究機構第一種研究センターに昇格、2名の学内スタッフの研究員が加入し、研究機構から活動費の配分、PD研究員の雇用費用も付与されるに至った。2024年3月に上記基盤(A)の助成期間が終了することから、次の資金調達が喫緊の課題となっている。

後述するように、センターの活動は8つのプロジェクトで成り立っており(後述「6. 研究活動」参照)、それぞれのプロジェクトをセンター長、研究員2名、客員研究員十数名、招聘研究員1名、PD研究員1名、RA、学生サポーター複数名で実施している。詳しい活動内容は「研究活動」「社会還元」をご覧いただきたいが、学術的にも社会的にもセンターならびにセンターの構成員は高いパフォーマンスを果たしてきていると自負している。専従は、RA(2017-2019年度)、PD研究員1名(2021-現在まで)の人員であり、専従事務職員は置いていない。これだけの人員でこの規模の活動を継続しているのはひとえに客員研究員や外部研究協力者(科研費基盤A「脱刑事罰処理を支える「治療法学」の確立に向けた学融的総合的研究」(代表:センター長)研究分担者)やセンターが事務局を担っている治療的司法研究会の幹事グループや会員諸兄のご協力、ご尽力に依るものである。

#### (5) 外部評価の実施

2024年4月には設立から7年が経過しようとしているので、これまでの活動を総括し、今後の展開・展望を検討するため、外部評価を実施し、その結果を公表することとした。そのため2023年度予算を用いて、2023年度までの7年間の活動について「活動報告」(本書第2部)を作成し、これを評価資料として評価員の方々に評価いただくことにした。報告書の作成に当たっては、多くの関係者のご協力を頂き、センターPD研究員の渡邉友美さんとアシスタントの飯野彩さんにとりまとめにご協力いただいた。記して感謝申し上げたい。

#### (6)謝辞

これまでの歩みを振り返ると、設立記念シンポジウム以来、大学当局や職員の方々、同僚各位からご支援をいただいてきたことにまず感謝申し上げたいと思う。とりわけ2020年に新しくリノベーションされた9号館での執務スペースの確保は大きな推進力となった。これだけ小さな大学でこうした研究センターの活動を開始、維持できるのは極めて例外的であり、所属研究員の強力なコミットメント、内外からの関心の高さ故であると得心している次第である。今後の一層のご理解ご厚情を御願いして報告書の冒頭の挨拶としたい。

## 第1部 外部評価報告

2024年2月から3月にかけて、治療的司法研究センターの外部評価を実施したので報告する。

#### 1. 外部評価委員

- 氏名:仲 真紀子氏
  - ▶ 所属等(外部評価実施時):理化学研究所理事
  - ▶ 専門領域:心理学
  - ▶ 職務経験等:

前・法と心理学会理事長。元・日本学術会議委員。

学際研究に詳しく、ご自身も心理学の立場から「司法面接」という児童被害者への聴取法について警察官、検察官といった法執行関係者に研修プログラムを展開されている。北海道大学名誉教授。日本心理学会常務理事、日本発達心理学会代議員、法務相法制審議会民法成年年齢部会委員等を歴任された。

- 氏名:中村 正氏
  - 所属等(外部評価実施時):立命館大学産業社会学部教授
  - ▶ 専門分野:社会病理学
  - ▶ 職務経験等:

現・社会病理学会会長、現・対人援助学会会長。法学士。

社会学の領域から脱暴力の研究を踏まえつつ、暴力当事者の脱暴力プログラムを展開されていて学際研究にも詳しい。内閣府配偶者暴力加害者プログラム調査研究事業座長、内閣府男女共同参画審議会「女性に対する暴力に関する専門調査会」委員も務める。)

#### 2. 外部評価日程

2023年10月 外部評価員の委嘱

2024年 2月 センター研究活動資料の送付

資料に関する質問と回答

3月 実地調査・オンライン調査の実施

外部評価員評価票の提出

#### 3. 外部評価の方法

書面、質疑、現地調査により、5つの項目について各5点満点(総合25点満点)で評価

#### 4. 評価

評価員氏名: 仲真紀子

#### ① 研究センターの組織・体制・スタッフ・予算等の妥当性

評点	評点の根拠	今後の改善点
4	顧問、センター長、研究員 2 名、PD 研究員 2 名、客	本センターの主たる目的が制度設計や政策立案で
<b>4</b>	員研究員 12 名、招聘研究員 1 名、リサーチ・アシス	あることに鑑みれば、法学分野の研究者が多いこ
	タント 1 名を擁している。専門領域が必ずしも述べら	とは妥当である。また、種々の活動において医療、
	れていないが、法学部の教員、研究員が多いように	心理、矯正等の研究者、実務家との交流が認めら
	見受けられる。	れた。それでもなお、今後、治療的司法の学際性
	予算は概ね、年を追って増加しており、よい状況に	をさらに高め、より実効性のある治療的司法を提
	ある。大学からの予算、また、科研費基盤 A の助成	言していくためには、福祉学、教育学、社会学など
	があることもよい。	の専門性をもつ人が加わることが有益であろう。
		また、本センターの運営に関し、大学からの支援が
		継続的に行われていることは、高く評価される。よ
		り踏み込んだ活動のためには、増額、さらなる支援
		が必要である。
		なお、外部評価資料にセンター組織・人員の専門
		領域や、それぞれの専門性からの貢献に関する記
		述があれば、センターの活動をよりよく理解するこ
		とができたであろう。

#### ② 研究センター活動の状況

	7170 CE 7 1120 0 0 00				
評点	評点の根拠	今後の改善点			
5	発信(講演会、WS、メディア)、研究活動(研究論	定期的なアウトリーチ、研究会、クローズドなイベン			
3	文、学会報告、研究経費の獲得)、センター主体の	ト、公開イベント、ジャーナルの発行、メディアを通			
	イベント、YouTube チャンネル(「なおみんと学ぶ」	しての発信等、法学、福祉、心理等の領域を横断			
	他)、社会人向け講座等々、さまざまな活動が多数	する活動が、活発に行われている。ドラッグコート			
	行われている。	に関する知見の提供や、刑務所の見学、弁護活動			
		に関する研修、立ち直りに関する講演会等、魅力			
		的な活動が多々行われており、申し分がない。こ			
		のような活動により、「治療的司法」の研究が進む			
		だけでなく、その概念が社会に浸透しつつあるこ			
		と、弁護の実務でも活用されるようになったことが			
		確認された。			
		なお、個々の活動の目的や対象者、そしてその成			
		果を測定する指標が明確にされれば、活動の評価			
		はよりしやすくなるだろう。			

#### ③ 研究センターの成果の状況

評点	評点の根拠	今後の改善点
5	センターから「治療的司法ジャーナル」が 7 巻まで、	当センターの雑誌に加え、各研究者が独自の領域
3	年に 1 回発行されている。研究員の研究論文の公	における学術誌等において研究報告を行ってい
	刊、学会報告、シンポジウムの実施、研究費の獲得	る。矯正の現状や治療的司法の必要性、そして治
	状況も良好である。矯正、治療的司法に関わる論	療的司法を可能にする具体的な活動について、多
	考や各地の取組みが発信されている。	くの学会報告、シンポジウムが行われている。こう
		いった研究活動が、新しい法制度(刑罰の懲役と
		禁錮が一本化され「拘禁刑」となる)に貢献してい
		ることは、すばらしい。
		また、若手人材育成においても成果が見られる(治
		療的司法のテーマでの学位取得、研究職への就
		職等)。治療的司法を学びたいという学生も増えて
		いることも高く評価できる。

#### ④ 研究センターの社会還元の妥当性

_		
評点	評点の根拠	今後の改善点
5	センター主催の公開イベント、YouTube チャンネル、	治療的司法の概念や制度のみならず、個々の研
5	社会人向け講座、講演等の、社会還元を目指すプ	究者の取組み(ダルク、アミティ、当事者とのやりと
	ログラムが実施されている。	り等)により、成果、知見の社会還元が行われてい
		る。HP、YouTube チャンネル、講座等のコンテンツ
		も充実しており、社会に向けた発信が広く行われて
		いる。
		今後、治療的司法を実践できる人たちの育成にま
		で踏み込んだ活動(例えば、習得すべき内容のカ
		リキュラムの策定・実施等)が行われれば、社会還
		元はさらに加速するであろう。

#### ⑤ 研究センターの宣伝広報活動の妥当性

評点	評点の根拠	今後の改善点
1	ホームページ、パンフレット、クリアファイル、封筒、	HP、パンフレット、ノベルティの作成等の工夫が行
4	ノベルティ、バナー、名刺、ジャーナル投稿等、さま	われている。こういった広報活動のための資料が、
	ざまな宣伝広報活動が行われている。	(1)誰に、どのように発信、配布されているのか、ま
		た、(2)発信、配布の結果、センターの存在やセン
		ターの活動の周知にどのような変化が生じたの
		か、効果検証が行われれば、より焦点を定めた広
		報が可能になるであろう。
		・対象者は誰か。一般市民か、治療的司法に携わ
		る専門家、実務家、市民か、治療的司法を受ける

	当事者か。
	・目標は何か。センターのことを知ってもらう、治療
	的司法に携わる人を増やす、当事者が治療的司
	法につながるようにする、等の何を狙っているの
	か。
	・効果を測定する指標を1つでも、2つでも作成して
	いただけるとより適切な評価が可能になると思わ
	れる。

#### ⑥ その他特記すべき事項

 センター研究員が、8 つの研究プロジェクトに携わっている。8 つのプロジェクトには似たものが含まれる。 例えば、出版と翻訳、教育啓蒙と研修、国際連携と国内連携等は、類似した活動だと思われる。いくつか の活動をまとめてシンプルにすることで、予算やエフォートの配分がしやすくなるかもしれない。

評点合計

23

<評 点> 5 : 優れている

4: 良好である 3: 平均的である 2: やや不十分である 1: 不十分である

評価員氏名 : 中村正

#### ① 研究センターの組織・体制・スタッフ・予算等の妥当性

評点	評点の根拠	今後の改善点
	治療的司法は法学以外の学問分野との連携、司	さらに分野を広げて、社会福祉や心理臨床分野、
	法の実践との協働が不可欠である。多様な法学	あるいは対象者の自立を考えると民事分野の
5	分野にくわえて、社会学や医学など関連領域の	方々などと連携できるとよい。
5	研究者、多くの弁護士が参加しており学際的で	
	あることが組織や体制として評価できる。予算	
	も大型プロジェクトの助成を得て運営されて	
	おり、評価できる。	

#### ② 研究センター活動の状況

評点	評点の根拠	今後の改善点
H 1 7111	#1 /M * 12/2C	/ A - 3 - 1 //

センターの先駆的な役割がよく理解できる。刑事司法に関わる分野の政策変化とパラレルに研究が進展していたことがセンターの先駆性を物語る。高齢又は障害により福祉的な支援を必要とする矯正施設退所者等の地域生活定着支援(地域生活定着促進事業、2009年)はもとより、少年法改正(特定少年、2021年)、刑の一部執行猶予制度(2013年)、拘禁刑の創設(2022年)、再犯防止推進(2016年)、性犯罪規定の改正(2017年、2023年)、DV防止法改正(2023年)なども治療的司法と関連している。多様な法制度はこうして治療的司法に関わる論点を内包している。それを概念としてまとめあげ、研究として包括してきた先見の明ある研究だと評価できる。

今後も、事実上、治療的司法に導かれた改革が 進行すると思われるので、さらに継続した活動 が望まれる。治療的司法の研究と実践を牽引し てきた活動の持続可能性を探ることは責務とも いえる。そのための財政的な保証が必要である。 外部資金の獲得に努力されたい。

#### ③ 研究センターの成果の状況

評点	評点の根拠	今後の改善点
	治療的司法の課題から必然的ではあるが、諸学融	治療的司法の知的な関心は各分野に拡大してい
	合的な研究活動となっていることが高く評価で	るので、専門の多様な人たちを引き続き組織し
	きる。研究が総合的であることは、Ristex や科	ていく必要がある。成果の広がりがさらに期待
	研 A を得たことに示されている。また、これは	できる。
	「学=実連携」ともいえる、社会実装という意味	
5	も明確な成果である。トランスレーショナルリサ	
	一チ、理論と実践の往還の好事例ともいえる成果	
	である。学問分野も多様ですし、法の実践者も多	
	い。弁護士だけではなく法曹全体に関わって展開	
	していることも特筆すべき成果である。治療的司	
	法は医学・看護系、福祉系、心理系にも広がって	
	いる。それをリードしてきたセンターである。	

#### ④ 研究センターの社会還元の妥当性

評点	評点の根拠	今後の改善点
----	-------	--------

治療的司法を「窓と鏡」にして、関連させるべき 重要なテーマ群を可視化させてきたことも大き な成果である。法と法以外の領域を「繋げる論理」 が構築されている。DV、虐待、アディクション領 域がその典型である。犯罪領域でも排除と孤立の 課題が治療的司法をとおしてクリアになってい る。社会的に脆弱な層が治療的司法の対象になっ ていることから、これは社会臨床的なテーマ性を 持つ。社会改革に直結する研究志向だといえる。 つまり治療的司法研究はアドボカシー的な役割 を持つことになる。この意味でも政策や制度に関 わり治療的司法の見地からの提言もできている ことは評価できる。 刑事法学的な領域だけではない分野への進出が 期待される。家族法や民事法学領域での課題も 山積している。社会還元が要請されていること もあり、取り組みを強化されたい。

#### ⑤ 研究センターの宣伝広報活動の妥当性

評点	評点の根拠	今後の改善点
	裁判員の関心、情状弁護の普及、更生・回復の視	研究センター主催の市民啓発にさらに取り組む
5	点 (再犯防止だけではなく) など伝統的な司法の	と概念の普及に奏功すると思われる。また、高
5	あり方の再考だけではなく、市民社会へと研究成	校生向けの企画も有益だろう。法学部志望者の
	果を還流させる取り組みに熱心なことも高く評	裾野を広げるという意味での大学らしい活動が
	価できる。多様なメディアの活用、旺盛なメディ	期待される。
	アアピアランス、啓発的な活動の重視などが評価	
	できる。	

#### ⑥ その他特記すべき事項

5

国際的な動向との共振(シンクロナイゼーション)がある。指宿センター長のグローバルな視点の確実性と 行動力のたまものだと思える。旺盛に国際学会に関係している点は評価できる。また、国際学会に参加する、 リサーチに出かけるだけではなく、日本に還流させる活動も旺盛であった。たとえば犯罪関連学会の50年ぶ りの開催に貢献している。一方で、財政的にはより強固な学内からの恒常的支援が必要と思われる。

評点合計<評点> 5 : 優れている4 : 良好である3 : 平均的である

2: やや不十分である

1 : 不十分である

## 第2部 活動報告

(2017~2023年度)

#### 1. 組織と人員

【注記】2023年度まで

#### (1) センター組織・人員

#### 顧問

岩井 宜子(専修大学名誉教授·2017.4~)

#### センター長

指宿 信 (成城大学法学部教授·2017.4~)

#### 研究員

南 保輔(成城大学文芸学部教授・2021.4~)

山本 輝之 (成城大学法学部教授・2021.4~2024.3)

#### PD 研究員

金澤 由佳 (2021.7~2023.5)

渡邉 友美 (2023.7~)

#### 客員研究員

安部 祥太 (関西学院大学法学部准教授·2018.4~)

飯野 彩 (慶應義塾大学等非常勤講師·2023.4~2024.3)

金澤 由佳 (慶應義塾大学医学部精神·神経科学教室所属助教·2023.7~)

鴨志田 祐美 (弁護士 (第57期)・2022.10~)

キャロル・ローソン (東京大学准教授・2023.6~)

島 亜紀(朝日大学法学部准教授・2019.4~)

菅原 直美(弁護士(新63期)・2017.4~)

東本 愛香 (千葉大学特任講師・2017.4~)

林 大悟 (弁護士 (第60期)・2017.4~)

廣井 亮一(立命館大学教授・2018.4~2023.3)

丸山 泰弘(立正大学法学部教授・2017.4~)

森久 智江(立命館大学教授・2018.4~2023.3)

森村 たまき (国士舘大学法学部、亜細亜大学法学部非常勤講師・2017.4~2023.3)

山田 恵太 (弁護士 (第 65 期) · 2017.4~)

#### 招聘研究員

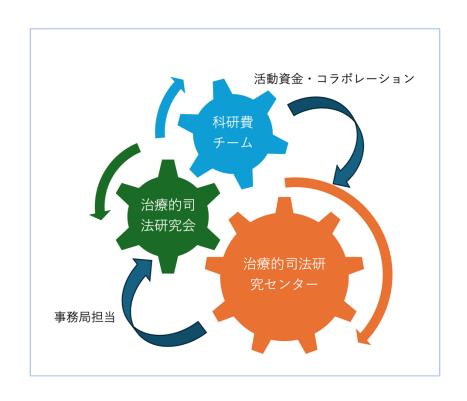
富樫 景子(駒澤大学講師・2022.4~2024.3)

#### リサーチ・アシスタント(RA)

暮井真絵子 (2017.4~2019.3)

#### (2)研究体制

本センターの研究体制は、センター内とセンター外部の連携によって進められている。センター内は センター長、研究員等で12~13名体制である。専従はPD研究員1名のみ。 研究体制の連携は、センター構成員、治療的司法研究会(2013~)、科研費 TJ チーム(2019~)の三つが軸となっており、それぞれメンバーは重なっている。連携は下図のようなかたちで繋がっている。



治療的司法研究会は2013年にセンター長を代表として立ち上がったクローズドの研究集団で、構成員は40名ほどで弁護士や研究者、裁判官、検察官等の治療法学や治療的司法に関心をもつ者が加入しており、コロナ前の対面時期は年3回、東京と京都で交互に開催していた。コロナ期はオンラインに移行、年5~6回開催している。財源は当初より日弁連法務研究財団の助成金でまかなっている。研究会の事務局を本センターが担い、企画運営は幹事グループに委ねている。

科研費 TJ チームは、2019~2023 年度基盤 A「脱刑事罰処理を支える「治療法学」の確立に向けた学融的総合的研究」(代表・センター長 19H00572)の研究グループであり、センター主催の各種イベントの企画や運営を共同して実施している。メンバーは下記の通り。

代表: 指宿信・成城大学教授(刑事訴訟法)

予算額:44,590 千円(直接経費:34,300 千円、間接経費:10,290 千円)

分担者:

後藤弘子・千葉大学教授(少年法)

中村正・立命館大学教授(社会病理学)

丸山泰弘・立正大学教授(刑事政策)・センター客員研究員

城下裕二·北海道大学教授(刑法)

廣井亮一・立命館大学教授(司法臨床)

安田裕子・立命館大学教授(心理学)

以上のように、センター、研究会、科研費チームの三つが有機的かつ能動的に連動することによってセンターの研究活動が活性化していると考えている。

#### (3)治療的司法研究会

開催実績については、「6. 研究活動」の(2)活動日誌記載のとおり。

2. 予算

#### (単位:千円)

財源 年度	RISTEX	科研費基盤 (A)	大学	合計 (千円)
2 0 1 7	2500	-		2500
2 0 1 8	2500	-		2500
2 0 1 9	1800	2000		3380
2 0 2 0	+	2500		2500
2 0 2 1	-	4500		4500
2 0 2 2	+	3000	6000	9000
2 0 2 3		3000	6000	9000

#### 2029年度予算並びに執行状況

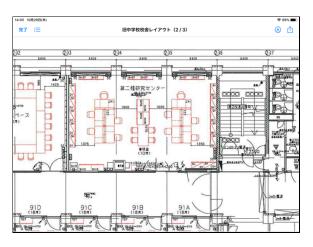
項目	費目	詳細	予算	執行
人件費	PD 研究員		3500	3500
	アルバイト		55	55
教育研究	旅費	出張旅費	650	650
	消耗品	文房具	47	47
	印刷	シンポジウム資料	2000	2000
		集印刷		
	通信	宅配	8	9
		郵送料	100	85
	委託報酬	ジャーナル編集料	400	400
		動画制作	960	960
		講演等	500	300
雑費	会合費	賃料	220	220
	広告費	ジャーナル投稿広	300	300
		告		
	諸費用	ノベルティ	88	88
予備費			172	2
合計			9000	8614

#### 3. 設備関係

#### (1) センター研究・執務スペース



治療的司法研究センタースペース



研究センター共用施設図面



センター入居の大学9号館正面

#### (2) センターの備品類

- ① パソコン関係
  - 1) iMac 1台(科研費にて購入)
  - 2) Windows ノートPC 1台(科研費にて購入)
- ② 撮影機材関係
  - 1) SONY 製4K ビデオカメラ 1台(科研費にて購入。YouTube 番組作成用)
  - 2) SONY 製一眼レフデジタルカメラ 1台(科研費にて購入。イベント撮影用)
  - 3) 三脚 1台 (科研費にて購入)
  - 4) オウル(ハイブリッド用360度カメラ搭載配信用機材)1台(科研費にて購入)

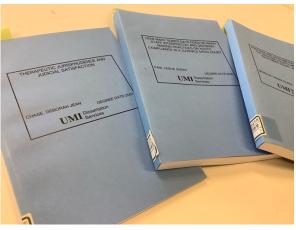
- 5) 照明2台 (科研費にて購入)
- 6) 望遠マイク 1個(同上)
- 7) 集音マイク 1個 (同上)
- 8) 延長コード 2個 (同上)
- ③ その他
  - 1) 書類キャビネット 20台 (大学備品)
  - 2) 書架 2本(大学備品、廃棄品流用)
  - 3) 複合機 (ファックス兼用コピー機) (大学備品)
  - (3) センター所蔵書籍等
- ① TJ 文庫(写真・下左)

学生サポーターの学習、研究員等スタッフの調査研究に寄与するため、更生保護、依存症関連、薬物政策関連、犯罪学関連の邦語文献を100冊弱所蔵する(主としてセンター長寄贈による)

② TJ 学位論文集(写真·下右)

海外の TJ に関する英文学位論文リプリントを 18件所蔵する (過去の科研費により一括購入)





#### 4. ロゴとコンセプトアート

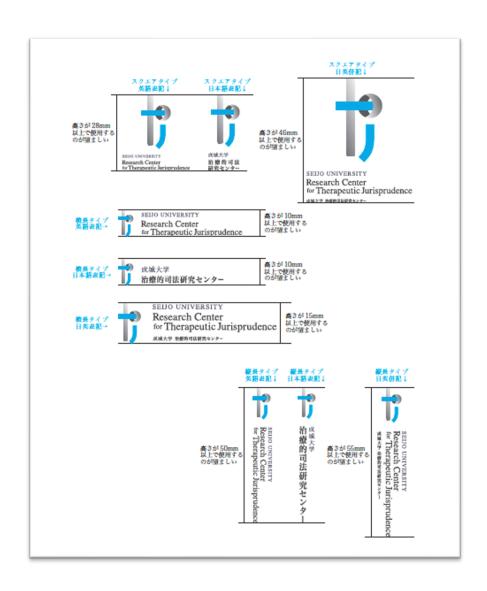
#### (1) センターロゴ

本センターでは治療的司法(Therapeutic Justice: TJ)という概念を社会に定着させるために、視覚的にTJを受け入れてもらえるよう、TJをモチーフにロゴを用意することにした。

デザインは、センター長の知人の京都市在住の新進デザイナー繭氏に依頼した。

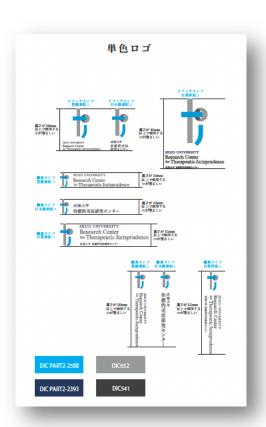
#### <使用指示>

下記の9つのロゴを基本で使用するものとする。使用する場に応じ、使い分けるものとする。どれも 色・形の改変は不可。縦横比率が等倍での縮小・拡大は可。ロゴマーク部分のみ(ロゴマーク単体)の 使用は可。



#### (2) 配色





#### (3) ロゴのコンセプト

デザイナー本人によるコンセプト説明は以下のとおりである。

日本では、まだ「治療的司法」という概念が浸透していません。

治療は個人の責任で行うもので司法とは関係ない、という捉え方が一般的と言って良いでしょう。 そこで「治療」と「司法」が相互に関連する姿を一見してわかるようロゴマークを設計いたしました。

「t」はtherapeutic、「j」はjurisprudence の頭文字をとりました。

t の横棒が j の頭部分に接している姿が治療的に司法に関与する姿勢を表現しています。

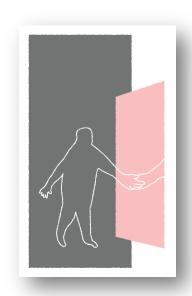
白から黒までの色を使ったグレーのグラデーションは多様性の受容、ブルーは司法の冷静な判断を踏ま えたうえでの人間的なあたたか味を象徴しています。「成城大学」の紺は、大学のカラーからとりまし た。

今回の改訂では、縦長のロゴと日英併記のロゴを追加しました。それに伴いロゴマーク部分とロゴタイプ部分の比率を若干、変更しております。

#### (4) コンセプトアート

もう一点、本センターに関わるデザインとして重要なものは、同じデザイナーの繭様に作成依頼したコンセプトアートである。これは治療的司法の「治療」に当たる英語である therapeutic をシンボリックにイメージしたものである。

therapeutict の語源を辿ってみると、ギリシャ語の  $\theta$   $\epsilon$   $\rho$   $\alpha$   $\pi$   $\epsilon$  v  $\tau$   $\iota$   $\kappa$   $\delta$   $\varsigma$  という語に辿りつく。これはケアをするとか面倒をみるといった意味だとされている。そしてこの語は、古代ギリシャ語  $\theta$   $\epsilon$   $\rho$   $\alpha$   $\pi$   $\epsilon$   $\dot{v}$   $\omega$  (セラペウオ) という語から生まれたとされていて、この語には「世話をする、奉仕する」といった含意がある(出典:指宿信「therapeutic 概念に関するメモ」治療的司法ジャーナル 4 号(2021)30 頁)。



そうした概念イメージがこのアートには込められていて、問題 の中にいる人に差し伸べられている「手」に、therapeutic の真意があることを見る者に伝えるデザインとなっている。

本アートは、年間を通して本センターのイベントで使えるよう右サイドの色が四季に応じて四色用意 されている(上は春用のピンク)。デザイナーの熟慮と配慮のお陰で各種イベントのチラシに年間を通 じて使われる。



<チラシ例>

#### 5. 広報活動

#### (1) ホームページ

大学内のホームページにおいて、トップの下にある「研究所・センター」の項目に本センターのページを置く。項目は、①挨拶とセンター紹介、②組織(スタッフ紹介)、③ニュース(活動報告やお知らせ等)、④刊行物(ジャーナル)、⑤成城TJ動画(YouTube チャンネルのコンテンツ・リンク)である。イベントについては大学のトップ画面でも随時告知してもらっている。原稿はセンターで作成しアップロードは大学広報に都度依頼する。



#### (2) パンフレット

2022年1月、本センターの概要を伝える媒体として紙媒体のパンフレットを制作した(A4見開き4頁)。各種イベント等で活用している(大学センター予算にて執行)。



#### (3) クリアファイル

イベント時の資料配付や各種郵送物発送用にクリアファイルを作成した (大学センター予算)。



#### (4) 封筒類

郵送物、配布用にセンター専用封筒を制作した(大学センター予算)。



#### (5) ノベルティ (ボールペン、Tシャツ、ポロシャツ)

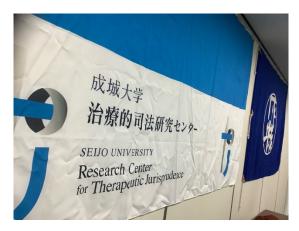
講師等への御礼品ならびに国際交流時の記念品として、センター特製ボールペンを制作した(自主制作)。センタースタッフや学生サポーターの活動時に本センターをアピールするため、Tシャツ(2018年度、自主制作)やポロシャツ(2022年度、大学センター予算)を作成した。





#### (6) バナー (横断幕)

センター主催各種イベントや記者会見、センターブース出展の背景用にバナーを作成した(2018年度、自主制作)。





#### (7) スタッフ名刺

センター関係者には名刺を配布し、日常的な人的交流の際にセンターの存在をアピール出来るよう工夫している。経費はセンター予算で実施した。右上部にセンターロゴを、左上部に大学ロゴを配置している。



#### (8) ジャーナル投稿宣伝広告

本センターで刊行しているオンラインジャーナルへの外部投稿を促すため、2022年度に「季刊刑事弁護」誌(現代人文社による刑事弁護の専門誌)や「犯罪社会学研究」誌(犯罪社会学会の学会誌)に広告を出稿・掲載した(大学センター予算)。



◆ SEIJO UNIVERSITY 成城大学 治療的司法研究センター

Research Center for Therapeutic Jurisprudence

# 治療的司法ジャーナル 原稿募集中!!













成城大学治療的司法研究センターは、罪を犯した人に対する刑事手続を当事者・家族・被害者等に 対する支援や治療を中心とした手続へと変容することを目指す "治療的司法" という考え方について研究する唯一の国内研究機関です。

「治療的司法ジャーナル」は当センターが毎年刊行する学術雑誌で、無料で公開されているオンラインジャーナルです。J-STAGEでも検索・参照可能となっています。法学、心理学、社会学、刑事政策、精神医学等の領域から理論研究、事例報告、翻訳等の多様な原稿を掲載しています。 多くの皆様の投稿をお待ちしています。

#### 応募資格

①国内の大学 (短期大学を含む)、大学院の常勤および非常勤の教員、②博士前期課程および博士 後期課程の在学者、③大学に所属する常動の研究職 (ポスドク等)、④法曹有資格者、⑤治療・回復・ 支援に関する職にある者 (医療関係者、NPO 職員、社会福祉関係者等)、⑥その他

#### 原稿種別

①論説、②研究ノート(事例・症例報告を含む)、③判例研究、④翻訳、⑤講演録、⑥書評、

⑦資料 (弁護士の事件報告は②に含みます)

投稿締め切り (メール提出のみ)

11月25日 (査読付き) 12月31日 (査読なし)

#### 刊行時期

3月末日

#### 分量

①と④は2万字程度、それ以外は1万字以内

ジャーナルのホームページは 以下からアクセスしてください。 詳細な論文軌筆要綱は以下の OR コードでアクセスしてください。

#### 提出先

成城大学治療的司法研究センター (rctj@seijo.ac.jp)





#### 6. 研究活動

#### (1)研究活動の概要

本センターでは以下の8つのプロジェクト項目に分けて活動を実施している。センタースタッフが中心となり、外部への委嘱も含めて、継続的な活動を目指している。

センターの各種プロジェクトと概要			
プロジェクト名称	内 容		
教育啓蒙プロジェクト	・TJ記者レク、高校「出前講義」、コミュニティ・カレッジ(公開講座)、学生サポーター制度・YouTube公式チャンネル、スタート(毎月更新)		
研修プロジェクト	・弁護士研修「情状弁護の質的転換を目指して」(日弁連法務研究財団協力:年2箇所開催)		
研究開発プロジェクト	・研究会開催(年3回実施、2021年度はオンラインで5回実施) ・海外動向調査(各国ドラッグコート参観) ・国内動向調査(サイトビジット:東京地方検察庁ヒアリング、千葉刑務所プログラム参加、東京保護観察官事務所ヒアリング等)		
出版プロジェクト	「治療的司法ジャーナル」刊行(2017年から毎年online刊行)、日英両語による論文刊行、治療的司法関連書籍の出版(指宿監修『治療的司法の実践一更生を見据えた刑事弁護のために』(第一法規、2018.9)出版)		
翻訳プロジェクト	TJ関連重要論文の翻訳紹介		
政策プロジェクト	・官庁・国会議員等との意見交換 ・"Change Article One (CAO)"(1条改正運動)(計画中)		
国際連携プロジェクト	・International Society of TJ (世界治療法学会議: 2 年に一度開催。2019年7月にローマで、 2023年にリヨンで開催、2021年7月は中止延期) ・各国の同種研究機関との交流(Webinerによる各国連続シリーズ)		
国内連携プロジェクト	全国の当事者支援アドヴォカシーとの連携		

教育啓蒙プロジェクトでは、センター設立当初に集中的に治療的司法や更生支援に関心を持つメデイア関係者に対する「記者レク」を、センター客員研究員を講師として連続的に実施し、のべ50名以上の報道関係者が参加した。一般市民向けに治療的司法の意味や効果を啓蒙するため、コミュニティカレッジ(学びの森)での連続講義を提供し、受講生の有志と懇談会も実施した。コロナ禍でパブリックイベントを持つことができなくなったのでYouTube チャンネルを設置し、オンラインでの啓蒙活動にも力を入れている。

研修プロジェクトでは、法曹向けに治療的司法の意味を理解してもらうよう、特に弁護士を対象とした「情状弁護」研修を企画し、日弁連法務研究財団の主催する研修会でコンテンツを提供、全国各地で実施した(札幌、仙台、東京、名古屋、京都、大阪、広島、福岡、金沢。合計9回)。

研究開発プロジェクトでは、研究者や法曹関係者等が参加する治療的司法研究会の事務局をセンターで担当する。年3回程度実施していたがコロナ禍でオンラインに移行。合わせて合計30回程実施している。科研費等を利用して海外動向調査や海外学会での分科会の企画や、国内学会での分科会やシンポジウムの主催等も積極的に進めている。更に重視しているのは治療や回復支援の現場訪問と交流で、刑務所や少年院、保護観察所、検察庁等を訪問している。

出版プロジェクトでは、センター刊行のオンラインジャーナル「治療的司法ジャーナル」をこれまで

7号発刊済みである。編集業務は専門的なエディターに委嘱している。

翻訳プロジェクトでは、治療的司法に関わる海外の重要文献を翻訳し、ジャーナルに掲載している。

政策プロジェクトでは、国会議員や官僚と政策立案等に関して意見交換をおこなっている。

国際連携プロジェクトでは、国際的な治療的司法のネットワークに参加、日本支部を引き受けて交流を促進し、実務家や研究者との情報交換を進めている。

国内連携プロジェクトでは、更生支援や依存症の回復治療に関わるNPO、NGO、研究機関等との 交流を進めている。

#### (2)活動日誌

2 ● 4月 治療的司法研究センター創設

0

1 7

年

度

● 5月26日 センター創設記者会見 (於 司法記者クラブ(東京地裁内)) 会見者:指宿信氏(センター長)「成城大学治療的司法研究センターの立ち上げと設立記 念講演会」

● 6月9日 治療的司法研究センターサイト公開

● 6月10日 成城大学治療的司法研究センター設立記念講演会開催

挨拶:戸部順一氏(成城大学学長)、指宿信氏(センター長)

祝辞:横田尤孝氏(元・最高裁判所判事、元・法務省保護局長)

基調講演:村木厚子氏(元・厚生労働省事務次官)「『罪を犯した人』のことを考える-再犯防止は支援が鍵-|

来賓:富山聡氏(法務省矯正局長)

研究報告:林大悟氏(センター客員研究員、弁護士)「クレプトマニアの弁護について」、菅原直美氏(センター客員研究員、弁護士)「薬物依存症者の回復支援と治療的司法-弁護実践報告と、これからの研究課題について-|





● 7月9-13日 第35回国際法と精神医療学会(プラハ、チェコ)

Session: Japanese Style of Therapeutic Jurisprudence: How can we put the new wine into the old bottle?

オーガナイザー:指宿信氏(センター長)

登壇者:菅原直美氏(センター客員研究員、弁護士)、石塚伸一氏(龍谷大学教授)、後藤弘 子氏(千葉大学教授)、中村正氏(立命館大学教授)

報告: Prof. Dr. Makoto Ibusuki, Age of Genesis for TJ in Japan

● 9月1日 犯罪学関連5学会合同シンポジウム

テーマ:治療法学からの日本への提言

講師:ディビッド・ウェクスラー(David B. Wexler)教授

シンポジウム「アディクションからの回復支援のネットワークの可能性~司法と福祉、理論と実践は、分かりあえるのか? |

〔司会〕指宿信氏(センター長)

〔シンポジスト〕中村正氏(立命館大学教授)、藤本哲也氏(矯正協会会長)、松本俊彦氏(国 立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部長)、水藤昌彦氏(山口県立 大学准教授)

● 10月15日 法と心理学会第18回大会

公開シンポジウム「治療的司法・正義の実践と理論-地域の課題としての犯罪者の立ち直りとその支援-|(於 成城大学3号館003教室)

企画者:中村正氏(立命館大学教授)

登壇者:菅原直美氏(センター客員研究員、弁護士)、山田恵太氏(センター客員研究員、

弁護士)





- 3月15日 治療的司法ジャーナル第1号(創刊号)刊行
- 3月下旬 海外視察(菅原直美氏(センター客員研究員、弁護士)、アメリカ・ハワイ州マウイ島のドラッグ・コートの視察)

● 5月中旬 海外視察(指宿信氏(センター長)、オーストラリア・シドニーのドラッグ・コートの視察)

● 6月26日 メディア向けセンター広報記者会見(東京地裁・司法記者クラブ) 登壇者:菅原直美氏(センター客員研究員、弁護士)、山田恵太氏(センター客員研究員、 弁護士)、指宿信氏(センター長)



● 7月21日 治療的司法研究センター設立1周年記念シンポジウム「"嗜癖行動"は止められるか ―問題解決型の刑事司法の導入を目指して―」(於 成城大学)

基調講演:平井愼二氏(独立行政法人国立病院機構下総精神医療センター薬物依存治療部長

1 8 年 度

2

兼臨床研究部長、条件反射制御法学会会長)「条件反射制御法で把握した行動原理に従う司法」

特別講演:小早川明子氏(NPO 法人ヒューマニティ理事長)「ストーカーからの足抜け支援|

研究報告:東本愛香氏(センター客員研究員、千葉大学特任講師)、丸山泰弘氏(センター客員研究員、立正大学教授)



- 7月25日 千葉刑務所参観、「被害者の視点を取り入れた教育」プログラムへの参加 コーディネーター:東本愛香氏(センター客員研究員、千葉大学特任講師) 参加者5名
- 8月24日 指宿信氏(センター長)、法務省矯正局長・富山聡氏と意見交換(於 法務 省)
- 10月15日 指宿信監修・治療的司法研究会編著『治療的司法の実践 更生を見据えた刑事弁護のために』(第一法規)刊行
- 10月18日 指宿信氏(センター長)、法務省保護局長・畝本直美氏他課長級数名と意 見交換(於 法務省)
- 10月21日 犯罪社会学会第45回研究大会(於 西南学院大学) テーマセッション「『入り口支援』は悪なのか:治療的司法概念に基づく回復支援・問題解

オーガナイザー:指宿信氏(センター長)

決型司法を考える|

パネリスト:山口健一氏(弁護士、日本弁護士連合会)、中田雅久氏(弁護士、第二東京弁 護士会)

コメンテーター:水藤昌彦(山口県立大学)、辻本典央氏(近畿大学教授)

● 11月16日「『治療的司法の実践』出版記念パーティー」(青学会館)

トーク:山本譲司氏(元・衆議院議員、社会活動家)

聞き手:中村正氏(立命館大学教授)

● 11月28日 ANZAPPL (オーストラリア・ニュージーランド法・心理・精神医学 学会) 大会 タスマニア、豪州

報告:指宿信氏(センター長)"Japanese style of therapeutic jurisprudence: How can we put the new wine into the old bottle?"

● 1月7日 学生サポーター学習会(大学5号館地下、法学資料室) 話し手:横田尤孝氏(元・最高裁判所判事、元・法務省矯正局長)



- 1月10日・25日 日弁連法務研究財団研修「情状弁護の質的向上を目指して」企画協力 (於 仙台・福岡)
- 2月15日 第15回治療的司法研究会(於 キャンパスプラザ京都)

テーマ:「きょうと・しゃばネット」の活動を通じて

講師:林明奈氏((公財)ソーシャルサービス協会ワークセンター・京都市自立支援センター主任相談員)

● 3月9日 第34回法と精神医療学会(於 北海道大学)

シンポジウム「司法と医療の連携による更生支援型刑事司法を考える:治療的司法の観点から」企画運営

オーガナイザー:指宿信氏(センター長)

報告者:菅原直美氏(センター客員研究員、弁護士)、芦沢健氏(千歳病院医師)

● 3月15日 治療的司法ジャーナル第2号刊行

0

1

9

年度

2 ● 6月4日 治療的司法研究センター招待講演、成城大学法学部「刑事政策」公開授業

テーマ: The Inside-Out Prison Exchange Program

講師: Reiko Hillyer 教授(Lewis & Clark College)

● 6月21日 第16回治療的司法研究会(於 成城大学)

テーマ: 窃盗症を理由に常習累犯性が否定された事例の紹介

講師:林大悟氏(センター客員研究員、弁護士)

● 7月22日 第36回世界法と精神医療学会(於 ローマ、イタリア) TJトラック「Current Movement of Rehabilitation Oriented Polity and Criticism in Japan」企画開催





● 10月10日 「成城 学びの森」コミュニティー・カレッジ 2019年度秋冬講座「罪を犯した人の立ち直りを考える-問題解決とその方策」開催 第1回テーマ:「連続講座のねらいを語る-「治療的司法」の考え方」

講師:指宿信氏(センター長)

● 10月17日 「成城 学びの森」コミュニティー・カレッジ 2019年度秋冬講座「罪 を犯した人の立ち直りを考える - 問題解決とその方策 | 開催

第2回テーマ:「窃盗症の人たちと向き合って-クレプトマニア裁判で考えたこと」 講師:林大悟氏(センター客員研究員、弁護士)

● 11月14日 「成城 学びの森」コミュニティー・カレッジ 2019年度秋冬講座「罪を犯した人の立ち直りを考える-問題解決とその方策」開催

第3回テーマ:「生きづらさを抱えた被告人たちと関わって-刑事弁護の現場から」 講師:菅原直美氏(センター客員研究員、弁護士)



● 11月21日 「成城 学びの森」コミュニティー・カレッジ 2019年度秋冬講座「罪 を犯した人の立ち直りを考える-問題解決とその方策 | 開催

第4回テーマ:「罪を犯した障害者と向き合って-司法と福祉の連携の可能性」

講師:山田恵太氏(センター客員研究員、弁護士)



- 11月22日 第17回治療的司法研究会(於 キャンパスプラザ京都) テーマ:「アディクト」からまだ見ぬ自分へ一ダルクの人たちの学びに関する考察ー 講師:市川岳仁氏(三重ダルク代表)
- 11月28日 「成城 学びの森」コミュニティー・カレッジ 2019年度秋冬講座「罪を犯した人の立ち直りを考える-問題解決とその方策」開催 第5回テーマ:「塀の中での取り組み-刑務所における再犯防止プログラムについて」

講師:東本愛香氏(センター客員研究員、千葉大学特任講師)

● 1月8日 治療的司法研究センター新年会(於 いなせや成城店)

● 2月14日 第18回治療的司法研究会(於 第一法規)
 テーマ:ニューヨーク公設弁護事務所におけるホリスティックな弁護活動講師:大橋君平氏(弁護士)
 ● 2月28日 法務研究財団弁護士研修 With 金沢弁護士会(於 金沢)

テーマ:情状弁護に質的転換を目指して

講師:指宿信氏(センター長)

● 3月15日 治療的司法ジャーナル第3号刊行

2 ● 6月13日 第19回治療的司法研究会(第1回オンライン研究会)
 0 テーマ:米国オークランドのドラッグ・コートのメンタル・ヘルス・コート
 2 講師:丸山泰弘氏(センター客員研究員、立正大学教授)

● 7月4日 第20回治療的司法研究会(第2回オンライン研究会) テーマ:映画「プリズン・サークル」を観て、坂上監督と語ろう

講師:坂上香氏(映像作家)

0

年

度

ファシリテーター: 富樫景子氏 (センター客員研究員、駒澤大学講師)

● 8月8日 第21回治療的司法研究会(第3回オンライン研究会)

テーマ:島根あさひ刑務所におけるTCプログラムについて

講師:藤岡淳子氏(大阪大学教授)

ファシリテーター:島亜紀氏(センター客員研究員、新潟大学特任准教授)

● 9月19日 第22回治療的司法研究会(第4回オンライン研究会)

テーマ:刑事施設医療と治療的司法

講師:赤池一将氏(龍谷大学法学部教授)

ファシリテーター: 奥田真帆氏 (弁護士)

● 10月17日 第23回治療的司法研究会(第5回オンライン研究会)

テーマ:矯正医療の経験について一中での関わりと外からの関わり-

講師:長谷川直実氏(医療法人社団ほっとステーション)

ファシリテーター:尾田真言氏(NPO法人アパリ事務局長)

● 11月20日 法務研究財団オンライン研修 with 広島県弁護士会

テーマ:情状弁護の質的転換を目指して

講師:指宿信氏(センター長)

- 12月 成城大学9号館1階に治療的司法研究センター移転
- 12月9、23日 学生サポーター ブック&トーク 担当: 富樫景子氏(センター客員研究員、駒澤大学講師)
- 12月19日 治療的司法研究会オンライン忘年会
- 1月23日 第24回治療的司法研究会(第6回オンライン研究会)

テーマ: 摂食障害と窃盗症-当事者と治療者の語りから考える-

ゲスト:ハナ氏(当事者)、斎藤麻里子氏(湊川病院医師)

ファシリテーター: 西谷裕子氏(弁護士)

● 2月26日 第25回治療的司法研究会(第7回オンライン研究会)

テーマ:刑罰論から見た治療的司法、治療的司法から見た刑罰論

ゲスト:松宮孝明氏(立命館大学法科大学院教授)

ファシリテーター:城下裕二氏(北海道大学大学院教授)

コメンテーター:尾田真言氏 (NPO 法人アパリ事務局長)

- 3月15日 治療的司法ジャーナル第4号刊行
- 3月27日 治療的司法研究センターオンライン懇親会
- 2 4月17日 第26回治療的司法研究会(第8回オンライン研究会)

0 テーマ:弁護士と心理職との連携について

2 ゲスト:大倉東子氏(臨床心理士)

1

年

度

ファシリテーター・聞き手: 西谷裕子氏(弁護士)

コメンテーター:廣井亮一氏(立命館大学教授)

● 5月22日 成城大学治療的司法研究センターの移転記念イベント YouTube 生配信 治療的司法研究センター学生サポーター「治療的司法研究センターの案内」 トークの部:

ファシリテーター: 菅原直美氏 (センター客員研究員、弁護士)

登壇者:山田恵太氏(センター客員研究員、弁護士)、丸山泰弘氏(センター客員研究員、 立正大学教授)、三輪記子氏(弁護士)



● 6月18-21日 アジア犯罪学会第12年次大会 (Asian Criminological Society 12th Annual Conference) (オンライン)

[TS08] Pre-arranged theme sessions 8 Japanese Trend of the Therapeutic Jurisprudence: Looking back and looking into the future

Chair: Makoto Ibusuki (Faculty of Law, Seijo University)

[TS09] Pre-arranged theme session 9 Therapeutic Approach for Criminal Defense in Japan Chair: Makoto Ibusuki (Faculty of Law, Seijo University)

● 6月25日 第27回治療的司法研究会(第9回オンライン研究会)

テーマ:依存行為と刑事弁護

ゲスト:渡邊宏美氏(編集担当者・日加除出版社)、中原潤一氏(弁護士)、神林美樹氏(弁護士)、斉藤章佳氏(大船榎本クリニック、精神保健福祉士・社会福祉士)、菅原直美氏(センター客員研究員、弁護士)、林大悟氏(センター客員研究員、弁護士)

ファシリテーター:丸山泰弘氏 (センター客員研究員、立正大学教授)

● 7月7日 治療的司法研究センターYouTube 公式チャンネル「なおみんと学ぶ! TJ 入門」 第1回テーマ:クレプトマニア弁護実践①

ゲスト: 林大悟氏 (センター客員研究員、弁護士)

企画・司会:菅原直美氏(センター客員研究員、弁護士)

● 7月10日 オンライン研究会「出院・出所後の生活と就労の安定―それぞれのタイミングで何ができるかー」

チェア:丸山泰弘氏(センター客員研究員、立正大学教授)

スピーカー: 千葉龍一氏 (株式会社生き直し: https://ikinaoshi.com/)、渡邉正行氏 (就職困難者支援機構 26 会)、平野由希子氏 (喜連川社会復帰促進センター)

オブザーバー:西原実氏(大阪保護観察所)

オーガナイザー: 東本愛香氏 (センター客員研究員、千葉大学特任講師)

● 8月5日 治療的司法研究センターYouTube 公式チャンネル「なおみんと学ぶ! TJ 入門」 第2回テーマ:クレプトマニア弁護実践②

ゲスト:原裕美子氏(元・マラソン選手)

企画・司会:菅原直美氏(センター客員研究員、弁護士)

● 8月8日 第28回治療的司法研究会(第10回オンライン研究会)

テーマ:薬物事犯と薬物政策:薬物使用事例報告と大麻自己使用の犯罪化について

ゲスト:佐藤正子氏(弁護士)、松本俊彦氏(国立精神・神経医療研究センター精神保健研 究所薬物依存研究部部長兼薬物依存症治療センターセンター長)

オーガナイザー:丸山泰弘氏(センター客員研究員、立正大学)

- 9月10日 オンライン懇親会
- 9月22日 治療的司法研究センターYouTube 公式チャンネル「なおみんと学ぶ! TJ 入門」

第3回テーマ:触法障がい者の弁護実践①



ゲスト:山田恵太氏(センター客員研究員、一般社団法人東京 TS ネット代表理事、弁護士)

企画・司会:菅原直美氏(センター客員研究員、弁護士)

● 10月1日 「成城 学びの森」コミュニティー・カレッジ 2021年秋冬講座「罪を犯した人の立ち直りを考える」(オンライン配信)

第1回テーマ:「総論:罪を犯した人たちの実像と立ち直り支援に向けた考え方」 講師:指宿信氏(センター長)

● 10月20日 治療的司法研究センターYouTube 公式チャンネル「なおみんと学ぶ! TJ 入門」

第4回テーマ:触法障がい者の刑事弁護実践②

ゲスト:大嶋美千代氏(東京 TS ネット更生支援コーディネーター、社会福祉士)

企画・司会:菅原直美氏(センター客員研究員、弁護士)

● 10月29日 「成城 学びの森」コミュニティー・カレッジ 2021年秋冬講座「罪を 犯した人の立ち直りを考える」(オンライン配信)

第2回テーマ:「各論:罪を犯した人たちにはどんな支援が具体的に必要なのか」 講師:指宿信氏(センター長)

● 11月6日 第29回治療的司法研究会(第11回オンライン研究会)

テーマ:「再犯防止から社会参加へ」との対話

ゲスト:安田恵美氏(國學院大學)、船山健二氏(新潟県立看護大学)、徳永元氏(大阪市立大学)、井口尚樹氏(目白大学)、髙橋康文氏(名古屋市立大学)、金澤真理氏(大阪市立大学)

ファシリテーター:城下裕二氏(北海道大学)

● 11月21日 治療的司法研究センターYouTube 公式チャンネル「なおみんと学ぶ! TJ 入門」

第5回テーマ:刑務所 VS 治療的司法①:罪と罰だけではない世界へ

ゲスト:丸山泰弘氏(センター客員研究員、立正大学教授)

企画・司会:菅原直美氏(センター客員研究員、弁護士)



● 12月9日 治療的司法研究センターYouTube 公式チャンネル「なおみんと学ぶ! TJ 入門」

第6回テーマ:刑務所 VS 治療的司法②:罪と罰だけではない世界へ

ゲスト:クマ氏(当事者)

企画・司会:菅原直美氏(センター客員研究員、弁護士)

- 12月17日 オンライン懇親会
- 12月20日 学生向けプログラム「米国少年司法ドキュメンタリー『希望の法廷』を観る」
- 1月10日 日本社会病理学会 一般公開特別企画(オンライン)

テーマ:刑事司法は<社会問題>をどのように視野に入れるか—「情状」とは何かをとおして考える

企画者・司会:中村正氏(立命館大学教授)

- 1. 情状弁護のフロントから 西谷裕子氏(弁護士/大阪弁護士会)
- 2. 生きる支援としての刑事司法-属性や差別をどう反映させるのか 後藤弘子氏(千葉大学教授)
- 3. 問題解決型裁判所と減軽専門家の実践〜日本への導入は可能か〜 丸山泰弘氏(センター客員研究員、立正大学教授)
- 4.「回復」は誰によって果たされ、解釈されるか 市川岳仁氏(三重ダルク代表/立命館大学大学院博士課程)

討論者:指宿信氏(センター長)

● 2月14日 治療的司法研究センターYouTube 公式チャンネル「なおみんと学ぶ! TJ 入門」

第8回テーマ:学生サポーターの巻

ゲスト: TJ サポーター生田緑氏 (成城大学法学部4年)、成合南氏 (成城大学法学部4年)、 古家春菜氏 (成城大学法学部4年)

企画・司会:菅原直美氏(センター客員研究員、弁護士)

● 2月26日 第30回治療的司法研究会(第12回オンライン研究会)

テーマ:『新自由刑』(拘禁刑) における処遇

ゲスト: 柑本美和氏(東海大学教授)

ファシリテーター: 富樫景子氏 (センター招聘研究員、駒澤大学)

● 3月3日 治療的司法研究センターYouTube 公式チャンネル「なおみんと学ぶ! TJ 入門」 第9回テーマ:最終回

ゲスト:指宿信氏(センター長)

企画・司会:菅原直美氏(センター客員研究員、弁護士)

● 3月4日 第31回治療的司法研究会(第13回オンライン研究会)

テーマ:札幌弁護士会による出所者支援の取り組みについて

ゲスト: 高野俊太郎氏(弁護士)、中島学氏(札幌管区長)

ファシリテーター: 菅原直美氏 (センター客員研究員、弁護士)

- 3月15日 治療的司法ジャーナル第5号刊行
- 3月17日 学生向けプログラム「松本俊彦先生とのオンライン懇談会」

ゲスト:松本俊彦氏(精神科医、国立精神神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研 究部部長)

● 3月18日 学生向けプログラム「学生サポーター卒業生送別会」

2 ● 4月6日 第1回 TIセンターカンファレンス (ハイブリッド)

● 4月9日 第32回治療的司法研究会(第14回オンライン研究会)

テーマ:日米の司法ソーシャルワークから見る現状と課題

ゲスト:戸井宏紀氏(東洋大学准教授)

0

2

2

年

度

ファシリテーター:丸山泰弘氏(センター客員研究員、立正大学教授)

● 5月4日 第2回 TJセンターカンファレンス (ハイブリッド)

● 5月25日 学生向けプログラム「シネマアンドトーク『ショーシャンクの空に』鑑賞会」

● 6月1日 第3回 TIセンターカンファレンス (ハイブリッド)

● 6月3日 指宿信氏(センター長)、林眞琴検事総長と面談、センターパンフ贈呈・意見交換(於 最高検察庁)

● 6月4日 第33回治療的司法研究会(ハイブリッド)

テーマ:犯罪に巻き込まれた人々の支援

ゲスト:阿部恭子氏 (World Open Heart 理事長、Inter7 共同代表)

ファシリテーター:奥田真帆氏(弁護士)

● 6月6日 治療的司法研究センターYouTube 公式チャンネル「丸ちゃんの犯罪学入門(仮)」 第1回ゲスト:荻上チキ氏(評論家、ラジオパーソナリティ、成城大学卒業生)

企画・司会:丸山泰弘氏(センター客員研究員、立正大学教授)

● 7月4-8日 第37回国際法と精神医療学会 (IALMH) (於 フランス・リヨン第三大学) 分科会オーガナイズ:指宿信氏 (センター長)

"Therapeutic Approach for Criminal Defense in Japan"

口頭報告: 菅原直美氏 (センター客員研究員、弁護士) Practice of Public Defender Based on the Therapeutic Justice

分科会オーガナイズ:指宿信氏(センター長)

"Japanese Therapeutic Jurisprudence Trends: Looking back and Looking into the Future"

口頭報告: 丸山泰弘氏 (センター客員研究員、立正大学教授) The Japanese Trend of Penal Reform for Drug Offender

口頭報告:指宿信氏(センター長)Introduction to the Research Center for Therapeutic Jurisprudence, Seijo University



- 7月20日 第4回 TJセンターカンファレンス (ハイブリッド)
- 7月30日 治療的司法研究センターYouTube 公式チャンネル「丸ちゃんの犯罪学入門

(仮)」

第2回ゲスト:阿部恭子氏 (World Open Heart)

企画・司会:丸山泰弘氏(センター客員研究員、立正大学教授)

● 9月4日 「共感 Like-Minded Endeavors 映像にみる刑務所の教育プログラム日米比較」 ハワイ大学ロースクール・アジア太平洋研究センター、センター共催 コーディネーター:マーク・レビン氏(ハワイ大学教授)、指宿信氏(センター長) 登壇者:後藤弘子氏(千葉大学教授)、坂上香氏(映像作家)、デビッド・ジョンソン氏(ハワイ大学教授)他





- 9月7日 第5回 TJセンターカンファレンス (オンライン)
- 9月13日 第34回治療的司法研究会 (ハイブリッド)

テーマ:オーストラリア首都特別区における治療的司法

ゲスト:キャロル・ローソン氏 (東京大学准教授)

ファシリテーター:指宿信氏(センター長)

● 9月14日 札幌刑務所女子区 依存症離脱プログラム参観

コーディネーター:後藤弘子氏(千葉大学教授)

参加者:指宿信氏(センター長、成城大学教授)、丸山泰弘氏(センター客員研究員、立正

大学教授)、金澤由佳氏(センターPD研究員)他

- 10月5日 第6回 TJ センターカンファレンス (ハイブリッド)
- 10月15-16日 犯罪社会学会(於 龍谷大学)

セッション「反復性違法行為者対策としての『強制的アプローチ (≒懲罰的アプローチ)』 と『受容的アプローチ (≒公衆衛生アプローチ)』」

討論者:指宿信氏(センター長)

● 11月6日 治療的司法研究センターYouTube 公式チャンネル「丸ちゃんの犯罪学入門 (仮)|

第3回ゲスト:高知東生氏(俳優、当事者)、田中紀子氏(公益社団法人ギャンブル依存症問題を考える会代表)

企画・司会:丸山泰弘氏(センター客員研究員、立正大学教授)

- 11月9日 第7回 TJセンターカンファレンス (ハイブリッド)
- 12月13日 成城大学「刑事政策」講義「薬物犯罪」ゲストスピーカー 講演者:東京ダルクの皆さま
- 12月21日 第8回 TJセンターカンファレンス (ハイブリッド)」
- 1月11日 治療的司法研究センターYouTube 公式チャンネル「丸ちゃんの犯罪学入門 (仮)|

第4回ゲスト:風間暁氏(NPO法人アスク社会対策部薬物担当、保護司)

企画・司会:丸山泰弘氏(センター客員研究員、立正大学教授)

● 1月18日 第9回 TJセンターカンファレンス (ハイブリッド)

テーマ:罪を犯した発達障害者に対する刑事司法のあり方

ゲスト:大塚未来氏(龍谷大学大学院博士課程)

● 2月1日 第10回 TJ センターカンファレンス & 第35回治療的司法研究会(第15回オンライン研究会)(於 成城大学3号館3階小会議室)

テーマ:刑事政策者から NPO の設立まで-石塚伸一先生に聞く

ゲスト: 石塚伸一氏(龍谷大学教授)

● 2月16日 学生サポーター学習会(オンライン)

ゲスト:松本俊彦氏(国立精神神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部部長、精神科医)

● 2月16日 Therapeutic Jurisprudence に関する世界中の研究者/実務家のための研究会「Around the World with TJ」

登壇者:指宿信氏(センター長)

報告者:丸山泰弘氏(センター客員研究員、立正大学教授)「A Discussion of Capital Punishment and Introduction to Current Penal Reform Trends in Japan from TJ lens」

● 2月19日 治療的司法研究センターYouTube 公式チャンネル「丸ちゃんの犯罪学入門 (仮)」

第5回ゲスト:風間暁氏(NPO法人アスク社会対策部薬物担当、保護司)

企画・司会:丸山泰弘氏(センター客員研究員、立正大学教授)

● 3月1日 第11回 TJ センターカンファレンス & 第36回治療的司法研究会(第1

6回オンライン研究会)

テーマ:治療的司法10年の実践を振り返って~弁護士が心理系大学院に進学する理由 ゲスト:菅原直美氏(センター客員研究員、弁護士)

● 3月7日 治療的司法研究センターYouTube 公式チャンネル「丸ちゃんの犯罪学入門(仮)」 第6回ゲスト:中島学氏(前・法務省札幌矯正管区長)

企画・司会:丸山泰弘氏(センター客員研究員、立正大学教授)

● 3月15日 治療的司法ジャーナル第6号刊行

● 3月18日 成城大学治療的司法研究センター設立5周年記念シンポジウム「新しい拘禁刑は何をもたらすか?」(於 成城大学3号館地下003教室)

主催:成城大学治療的司法研究センター

協賛:科学研究費補助金・基盤(A)「脱刑事処理を支える「治療法学」の確立に向けた学融 的総合的研究」19HO057

祝辞:岩井宜子氏(センター顧問、専修大学名誉教授)

基調講演:中島学氏(前·法務省札幌矯正管区長)

パネル討論者:國井恒志氏(静岡地裁判事)、田鎖麻衣子氏(弁護士)、東本愛香氏(センター客員研究員、千葉大学特任講師)、中島学氏(前・法務省札幌矯正管区長)

ファシリテーター:城下裕二氏(北海道大学教授)、丸山泰弘氏(センター客員研究員、立 正大学教授)





2 ● 4月28日 第37回治療的司法研究会(第17回オンライン研究会)

テーマ:常習累犯窃盗における常習性について

0

2

3

年度

ゲスト:林大悟氏(センター客員研究員、弁護士)

コメンテーター:城下裕二氏(北海道大学教授)

● 5月10日 第12回 TJセンターカンファレンス (ハイブリッド)

テーマ:人生の意味の喪失と薬物依存:フィンランド人 NA メンバーAのライフストーリー

ゲスト:南保輔氏(センター研究員、成城大学教授)

● 5月25日 学生サポーターイベント 映画上映会「プリズン・サークル」

● 5月26日 第38回治療的司法研究会(第18回オンライン研究会)

テーマ:問題解決型裁判所の導入可能性と治療的法学

ゲスト:石田侑矢氏(九州大学助教)

コメンテーター:丸山泰弘氏(センター客員研究員、立正大学教授)

● 5月30日 東京大学法科大学院 講義科目「刑事司法のアウトサイダー」 講演:指宿信氏(センター長)

6月7日 第13回 TJセンターカンファレンス(オンライン)

テーマ:治療的司法のレンズからみた行政警察作用の TJ 的利用の可能性 - 韓国と日本のストーカー犯罪をテーマにした提言 -

話題提供:パク・ジェミン氏 (関西学院大学大学院研究生)

テーマ:常習累犯規定について

ゲスト:中島広樹氏(平成国際大学教授)

● 7月28日 第40回治療的司法研究会(第19回オンライン研究会)

テーマ: これからの TJ 研の 10 年のために

ファシリテーター: 菅原直美氏 (センター客員研究員、弁護士)

話題提供:丸山泰弘氏(センター客員研究員、立正大学教授)、中田雅久氏(弁護士)

● 9月23-24日 犯罪心理学会オンライン大会シンポジウム「ハイリスク・ストーカーへ

の法と臨床-新たな視点の展開-

企画者:廣井亮一氏(立命館大学教授)

登壇者:中村正氏(立命館大学教授)、後藤弘子氏(千葉大学教授)

指定討論者:指宿信氏(センター長)

● 9月13日-15日 長野県刑事三施設参観

コーディネーター: 東本愛香氏 (センター客員研究員)

参加者:島亜紀氏(センター客員研究員・朝日大学准教授)ほか

施設・プログラム等:有明高原寮(短期・特別短期 少年院)、長野刑務所(A・LA指標・無期 刑務所 就労支援強化施設)、松本少年刑務所(YB・B指標 刑務所 性犯プログラム実施施設))



● 10月6日 第41回治療的司法研究会(ハイブリッド)

テーマ: 「問題解決しない事例検討会」の理念とその可能性

講師:西念奈津江氏(北陸 HIV 情報センター ソーシャルワーカー)

オーガナイザー: 奥田真帆氏(弁護士)

事例提供者:菅原直美氏(センター客員研究員、弁護士)

● 10月11日 第15回 TJセンターカンファレンス (ハイブリッド)

テーマ:長野県刑事施設参観報告

報告者:朝井鉄氏(成城大学大学院博士前期課程)

報告者補助:東本愛香氏(センター客員研究員)

- 11月3日 日韓・韓日刑事法研究会第4回合同学術セミナー(於 TKP 東京駅大手町カンファレンスセンター22A会議室)センター後援
- 11月28日 成城大学「刑事政策」講義

テーマ:薬物依存からの回復

ゲスト:東京ダルクの皆様

● 11月29日 第16回 TJセンターカンファレンス (ハイブリッド)

テーマ: 少年鑑別所における学習支援の在り方の検討 - 千葉少年鑑別所での学習等支援講師 (教科学習指導)の経験を踏まえて -

報告者:渡邉友美氏(センターPD 研究員)

● 1月20日 第42回 治療的司法研究会 (ハイブリッド)

テーマ: 「拘禁刑導入に向けて、今刑務所では」

報告者:岡本融氏(前橋刑務所処遇企画部門上席統括矯正処遇官(教育担当)統括)、東本

愛香氏 (センター客員研究員、千葉大学特任講師)

ファシリテーター:大橋いく乃氏(弁護士)



● 2月1日 千葉刑務所参観・「被害者の視点を取り入れた教育」についてヒアリング コーディネーター: 東本愛香氏(センター客員研究員、千葉大学特任講師) 参加者: 指宿信氏(センター長)、渡邉友美氏(センターPD研究員)、センターサポーター 学生等

● 2月6日 センターYouTube 公式チャンネル「DAIGO 先生と学ぶ クレプトマニア入門」 第1回ゲスト:木谷明氏(弁護士、元・裁判官)

企画・司会:林大悟氏(センター客員研究員、弁護士)

● 2月23日 国立台北大学(台湾)法学部大学院にてセンター長が講演。





● 2月28日 センターYouTube 公式チャンネル「DAIGO 先生と学ぶ クレプトマニア入門」

第2回ゲスト:後藤幸織氏(京都大学大学院准教授)

企画・司会:林大悟氏(センター客員研究員、弁護士)

● 3月6日 センターYouTube 公式チャンネル「DAIGO 先生と学ぶ クレプトマニア入門」 第3回ゲスト:後藤幸織氏(京都大学大学院准教授)

企画・司会:林大悟氏(センター客員研究員、弁護士)後半

● 3月18日 センターYouTube 公式チャンネル「DAIGO 先生と学ぶ クレプトマニア入 門」 第4回ゲスト:村松太郎氏(慶應義塾大学准教授)

企画・司会:林大悟氏(センター客員研究員、弁護士)

● 3月27日 センターYouTube 公式チャンネル「DAIGO 先生と学ぶ クレプトマニア入 門」

第5回ゲスト:村松太郎氏 (慶應義塾大学准教授)

企画・司会:林大悟氏(センター客員研究員、弁護士)



● 3月 センター外部評価実施

● 3月9-10日 センター主催・治療的司法研究会共催「三重ダルクならびに LABO 視察、 意見交換学習会」

登壇者:市川岳仁氏(三重ダルク代表)、中田雅久氏(弁護士)他 コーディネーター:菅原直美氏(センター客員研究員、弁護士)

● 3月15日 「治療的司法ジャーナル」第7号刊行

# (3) 所属メンバーのメディア等登場

日時	内 容	ピックアップ
2017.5.12	毎日新聞「治療的司法で再犯防止 成城大学に研究センター」	センター、センター 長
2017.5.31	読売新聞「万引き再犯 治療優先 窃盗症など罰金判決 徐々に」取材	林研究員
2017.6.10	NHK News7 「成城大学に治療的司法研究センター設立」	センター
2017.6.14	信濃毎日新聞「つながりなおす 依存症社会 回復につなげる司法に」取材	林研究員

2017.7.30	NHK「日曜討論」出演	山本研究員			
2017.8.25	毎日新聞(夕刊)「「窃盗症」懲役より罰金刑」取材	林研究員			
2017.9.1	朝日新聞「クレプトマニア やめられない万引き(5)「刑罰よりも治療必要」」取材	林研究員			
2017.9.11	日本経済新聞 (夕刊) 「再犯防止へ回復支援 窃盗症 治療に つなげる」取材	林研究員			
2017.9.24	朝日新聞「万引き まさか認知症とは 3回有罪 4回目は精 神鑑定で無罪」取材	林研究員			
2017.9.25	日本経済新聞「治療的司法の導入論 刑罰に代わる更生支援」	センター、センター 長			
2017.10.24	週刊女性「もしかしたらあなたも犯罪者に?!知られざる認知症の恐怖」取材	林研究員			
2018.1.3	毎日新聞「認知症で無罪・減軽 29 件」取材 林研究員				
2018.1.13	毎日新聞「精神鑑定実施 地裁で差」取材	林研究員			
2018.2	毎日新聞「薬物依存の現状紹介/三重県と NPO がフォーラム」 丸山研究員 コメント				
2018.3.2	読売中高生新聞「司法 刑罰から治療へ」	センター長			
2018.4.20	『季刊刑事弁護』94 号「この弁護士に聞く」インタビュー	林研究員			
2018.6.10	読売新聞「窃盗衝動 治療で抑制」	林研究員			
2018.7.18	NHK「クローズアップ現代」出演 センター長				
2018.7	弁護士ドットコム「薬物犯罪、刑事施設ではなく社会で治療・・ 丸山研究員 米国「ドラッグ・コート」の実態」取材協力				
2018.8	毎日新聞「NPO 地域カフェ/出所者の居場所作り「本気の更生 支援」」				
2018.9.1	月刊 弁護士ドットコム「クレプトマニアの弁護で問題解決	林研究員			

	型司法の実現へ」寄稿				
2018.9.29	毎日新聞東京版夕刊一面 センター、セン 長、丸山研究員				
2018.9	毎日新聞「薬物犯更生、米国流カギ!?社会で治療、再犯防止/ドラッグ・コート」取材協力	丸山研究員			
2018.10	Slate (France version) 「Quand le Japon était à deux doigts du chaos à cause de la méthamphétamine」	丸山研究員			
2018.11.9	茨城新聞「なぜ盗むか分からぬ/やめられない万引 クレプトマニアの今(上)」取材	林研究員			
2018.11.10	茨城新聞「病気「リアルに実感」/ やめられない万引 クレプトマニアの今(下)」取材	林研究員			
2018.11.10	週刊現代「緊急特集 親とあなたの認知症 これだけは知っ 林研究員 ておくべき」取材				
2018.12.30	朝日新聞「弁護士不在の取り調べ『前近代的』ゴーン前会長の 安部研究員 勾留」コメント				
2019.5.18	毎日新聞「性犯罪 更生の道遠く」 東本研究員				
2019.5.29	テレビ金沢「治療か刑罰か」出演 センター長				
2019.5	朝日新聞「判決後にも目を向けて」コメント	丸山研究員			
2019.6.8	週刊現代「1 億総認知症時代 やれることはやっておく 認知 林研究員 症になることを前提にして考えてみると、こんなに違う」				
2019.8.30	朝日新聞「432 円窃盗の女 精神鑑定で裁判長期化 勾留 19 林研究員 ヶ月でも判決は懲役 14 ヶ月」				
2019.9	NNNドキュメンタリー「クレプトマニア 治療と刑罰」出演 センター長、材 員				
2019.9	The Economist「Japanese law and social mores still treat users 丸山研究員 of soft drugs severely」コメント				
2019.9	北海道新聞「薬物再犯防止:女性受刑者を支援へ」コメント 丸山研究員				

2019.10	弁護士ドットコム 48 号表紙・巻頭インタビュー 菅原研究員				
2020.2.14	NHK ラジオ「NHK ジャーナル 薬物依存症を考える」出演 センター長				
2020.2.18	中日新聞「万引に 3 度目執行猶予」	林研究員			
2020.2.19	西日本新聞社説「性依存症 社会復帰に治療と支援を」	センター			
2020.3	Abema TV「AbemaPrime」出演	丸山研究員			
2020.4.4	朝日新聞(夕刊)「窃盗症で「耗弱」異例の減刑」	林研究員			
2020.4.6	京都新聞「黒い正義――湖東記念病院冤罪 第4回『冤罪検証 日本「後進国」』」コメント	安部研究員			
2020.6.11	西日本新聞「インタビュー 制度改革に関心高い韓国 青山 安部研究」 学院大・安部祥太助教」				
2020.6.24	南日本新聞「再審と正義――大崎事件棄却1年(4)」コメン 安部研究員ト				
2020.7.1	日弁連新聞「治療的司法の実践を!」 センター長員				
2020.9.1	読売新聞(千葉版)「知的障害と性犯罪(下)」	東本研究員			
2020.9.10	毎日新聞「記者の目 認知症の犯罪者――刑務所より医療や福祉の手に」コメント	安部研究員			
2020.10.1	刑事事件弁護士ナビ「日本と海外の薬物依存に対する取り組 み   刑罰に頼らない向き合い方」インタビュー	丸山研究員			
2020.10.5	東京新聞「こちら特報部「居場所の存在 再犯防ぐ」」コメント	丸山研究員			
2020.10.7	朝日新聞夕刊一面	センター長			
2020.11.4	テレビ愛知「5時スタ 出所後の雇用:厳しい現実」出演	丸山研究員			
2021.2.25	ラジオ「ひだまりハウス」(ニッポン放送)「高齢者の万引きに 林研究員 ついて」出演				

2021.2.28	中日新聞「また万引「理由はない」刑罰よりも治療が必要」取 林研究員 材					
2021.5.18	ハフポスト「薬物事件、不起訴でも内定取り消し:「ダメ。ゼ 丸山研究員 ッタイ。」が当事者・家族を苦しめる。」コメント					
2021.6.12	東京新聞「トイレ紙盗難 悩む管理者」取材	林研究員				
2021.6.13	読売新聞「あれから Vol.14 マラソン女王の病」	林研究員				
2021.7.3	第71回「社会を明るくする運動」馬込・池上・新井宿地区集 会(YouTube)「意外と身近な依存症」出演	丸山研究員				
2021.7.12	朝日出版社:AERA「大麻「問題使用」を減らすには「使用罪」より背景に向き合う」インタビュー	丸山研究員				
2021.7.16	文藝春秋 digital「厚労省が導入を議論…大麻「使用罪」は薬物 丸山研究員 依存症対策の"切り札"になるのか?」寄稿					
2021.8.27	雑誌 ELLE「DV と女性と法律と【家族と暴力を考える Vol. 顧問 1】」インタビュー					
2021.8.29	産経新聞「入り口で葬られた報告書・コメント」 山本研究員					
2021.8.31	雑誌 ELLE「なぜ女性は家の中で殺人を犯すのか【家族と暴力 顧問を考える Vol. 2】」インタビュー					
2021.9.3	雑誌 ELLE「女性への暴力をなかったことにさせないために 顧問 【家族と暴力を考える Vol.3】」インタビュー					
2021.10.1	講談社 FRIDAY DIGITAL「世界から取り残されてる・・・? 丸山研究員 日本の「大麻事情」最前線のホントの話」コメント					
2021.10.27	毎日新聞「オピニオン『やまゆり園』にみる精神医療」 山本研究員					
2021.10.29	PRESIDENT Online「「監視カメラで全乗客の顔を判別」JR 東 日本の出所者検知システムはどこに問題があったのか」					
2021.11.13	愛媛新聞「新居浜・一家 3 人殺害 1 カ月 『第三者委で検証 山本研究員 が必要』」					
2022.4.18	東京新聞ニュースがわかる AtoZ「グルーミングから子を守れ」 安部研究員 コメント					

2022.4.22	YouTube ケージェネ ch-啓二弁護士が刑事裁判と司法試験を 菅原研究員 語る-「治療的司法①治療的司法ってなんだろう?【教科書に は載っていない法律と実務の架け橋】」出演				
2022.5.12	Green Zone Japan YouTube Channel「アメリカの薬物司法「ド ラッグ・コート」とは?【薬物政策の専門家・立正大学丸山泰 弘教授に聞く:前編】出演				
2022.5.13	YouTube ケージェネ ch-啓二弁護士が刑事裁判と司法試験を 菅原研究員 語る-「治療的司法②覚醒剤自己使用事件で再度の執行猶予を 獲得!【教科書には載っていない法律と実務の架け橋】」出演				
2022.5.19	Green Zone Japan YouTube Channel「薬物先進国ポルトガル 丸山研究員 の現在と日本の未来【薬物政策の専門家・立正大学丸山泰弘教 授に聞く:後編】出演				
2022.5.27	YouTube ケージェネ ch-刑事弁護士が刑事裁判と司法試験を語る-「治療的司法③もう責任能力だけでは解決できない!治療的司法の展望【教科書には載っていない法律と実務の架け橋】」出演				
2022.6.6	西日本新聞「大麻「たばこ感覚」罪の意識薄い若者 気分高揚 気が付けば常習者に」コメント	丸山研究員			
2022.8.4	テレビ朝日「ABEMA ヒルズ「【死刑】8割が「やむを得ない」 世界では"制度廃止"の動きも?絞首刑は残虐?「死刑の在り 方」を考える」コメント				
2022.11.14	メディカ LIBRARY 記事「アナタの知らない依存症治療の世界 〜依存症治療のハマったさんにきいてみた! # 4 0 "治療的 司法"を実践する弁護士」寄稿				
2022.12.18	雑誌サイゾー「真・大麻論」コメント	丸山研究員			
2023.1.11	テレビ朝日「ABEMA ヒルズ「絞首刑は残虐?成田悠輔と考え 丸山研究員る"日本の死刑制度"」」出演				
2023.1.17	Podcast「丸ちゃん教授のツミナハナシ~市民のための犯罪学 丸山研究員 ~」#1「意外と知らない裁判員制度」企画、司会、出演				
2023.2.1	ABEMA Prime「特殊詐欺、知らずに協力し有罪判決の是非」 林研究員 出演				

2023.2.15	TouTube STAY HEALTHY and be HAPPY!「犯罪学からみた 丸山研究員 日本の薬物政策」出演					
2023.2.15	YouTube STAY HEALTHY and be HAPPY!「薬物の非犯罪化:ポルトガルでは?」出演	丸山研究員				
2023.3.7	YouTube STAY HEALTHY and be HAPPY!「ハームリダクション:薬物で命を失わないで」出演	丸山研究員				
2023.4.20	中日新聞「再審制度遅れる日本 検察の抗告禁止など海外進む」コメント	安部研究員				
2023.11.18	朝日新聞デジタル「連載 聖域 取り調べの弁護士立ち会い 安部研究員 第4回『何人殺した?』捜査員が問うと韓国ドラマが描く 弁護士立ち会い」インタビュー					
2023.11.30	第 212 回国会・参議院厚生労働委員会 参考人招致	丸山研究員				
2023.12.6	NHK「おはよう日本」 山本研究員					
2024.1.18	TBS ラジオ「【解説】特定少年に初の死刑判決」出演 丸山研究員					

# 7. 研究成果

# (1) 刊行物(治療的司法ジャーナル)

● 治療的司法ジャーナル第1号(創刊号、2018年3月)

≪巻頭言≫

センターの創設とジャーナル刊行について 指宿 信

≪挨拶≫

治療的司法研究センターへの期待 岩井 宜子 治療的司法への期待と目標 林 大悟 弁護士が模索する治療的司法 菅原 直美 現在の臨床研究と治療的司法への期待 東本 愛香 これからの治療的司法のために 丸山 泰弘 治療的司法研究センター設立によせて 森村 たまき 刑事手続における障害のある人の権利を守るために 山田 恵太 治療的司法の理論研究と実践をめざして 安部 祥太 RA としてのセンターの活動について 暮井 真絵子

≪講演録≫

治療的司法研究センター設立記念講演会 基調講演

『罪を犯した人』のことを考える-再犯防止は支援が鍵- 村木 厚子

≪論説≫

韓国における常習窃盗罪をめぐる近時の議論状況について 安部 祥太

執筆者一覧

編集後記

論文執筆要綱

● 治療的司法ジャーナル第2号(2019年3月)

≪巻頭言≫

第2号に添えて 指宿 信

≪海外視察報告≫

現行制度のままで実現可能な「日本版ドラッグ・コート」~ハワイ州マウイ島とシドニーの各ドラッグ・コート視察からの考察と展望~ 菅原 直美

≪翻訳≫

デイビッド・B・ウェックスラー著

新たなワインを新たなボトルに-刑事手続と実務提案に関する治療的法学の「法典 (Code)」を 素描する必要性- 森村 たまき 論文執筆要綱

執筆者一覧

編集後記

● 治療的司法ジャーナル第3号(2020年3月)

≪巻頭言≫

第3号刊行に寄せて

指宿 信

≪論説≫

アメリカの刑事収容施設における教育プログラムの提供と The Inside-Out Prison Exchange

Program 島 亜紀

≪講演≫

教育を通して刑務所との壁を打ち破ること: レイコ・ヒリアー

The Inside-Out Prison Exchange Program 訳:佃 陽子

≪海外短信≫

NADCP (ドラッグ・コート専門家会議) レポート 丸山 泰弘

A Letter from Berkeley 丸山 泰弘

治療的司法研究センター2019年活動記録

論文執筆要綱

執筆者一覧

編集後記

● 治療的司法ジャーナル第4号(2021年3月)

≪巻頭言≫

第4号刊行に寄せて 指宿 信

≪特別寄稿≫

ペギー・ホラ判事追悼 丸山 泰弘

≪論説≫

「TJ」と「TC」からなる日本型「治療的司法」の考察~国会議事録を手がかりに~

金澤 由佳

≪翻訳≫

治療法学と問題解決型裁判所 ブルース・J・ウィニック

訳:森村 たまき

≪コラム≫

therapeutic 概念に関するメモ

指宿 信

≪海外短信≫

コロナ禍での治療的司法~パンデミックでの米国の実務はどうなっているか~

指宿 信

≪お知らせ≫

治療的司法研究センター室移転のお知らせ

富樫 景子

治療的司法研究センター2020年活動記録 治療的司法ジャーナル論文執筆要綱 執筆者一覧 編集後記

● 治療的司法ジャーナル第5号(2022年3月)

≪巻頭言≫

第5号刊行に寄せて 指宿 信

≪論説≫

治療的司法と刑罰との対話 松宮 孝明

≪論説≫

大麻使用罪創設の何が問題か 丸山 泰弘

≪論説≫

韓国における治療的司法研究と刑事司法実務 安部 祥太

≪研究ノート≫

フランス DV 対策としての加害者更生プログラム 町村 泰貴

≪外国文献紹介≫

米国における更生支援型弁護事務所の実証的研究 指宿 信

治療的司法研究センター2021年活動記録 治療的司法ジャーナル論文執筆要綱 執筆者一覧 編集後記

● 治療的司法ジャーナル第6号(2023年3月)

《巻頭言》

第6号刊行に寄せて 指宿 信

《論説》

オーストラリア首都特別区における治療的司法

:ポストコロナ期における考察

キャロル・ローソン

《論説》

措置入院、医療観察法指定医療機関入院について考える~インタビューからの考察~ 金澤 由佳

《論説》

TJ のレンズから見たストーカー規制法―行政警察作用における TJ の可能性―

朴 濟民

《研究ノート》

外国文献紹介:

発展する問題解決型裁判所とその評価のあり方

指宿 信

治療的司法研究センター 2022年活動記録 治療的司法ジャーナル論文執筆要綱 執筆者一覧 編集後記

● 治療的司法ジャーナル第7号(2024年3月)

《巻頭言》

第7号刊行に寄せて

指宿 信

《論説》

常習累犯窃盗罪と違憲審査

中島 広樹

治療的司法における検察官の役割―韓国の裁判官主導の治療的司法の議論を踏まえて

**ー** 朴 濟民

長野県内矯正施設参観報告書

- 有明高原寮,長野刑務所,松本少年刑務所を参観して- 島 亜紀

《研究ノート》

外国文献紹介:刑事弁護人の役割と治療法学 指宿 信

《その他》

千葉少年鑑別所における学習支援の実践

- 外部講師の視点から - 渡邉 友美

《海外短信》

米国精神医学と法学会に参加して 金澤 由佳

治療的司法研究センター 2023年活動記録 治療的司法ジャーナル論文執筆要綱

執筆者一覧

編集後記

# (2) 所属メンバー業績一覧

氏 名	論文・著作タイトル等
岩井 宜子	● 新少年院法・少年鑑別所法制定の経緯, 岩井 宜子 青少年問題 66 (夏季), 10-15,
	2019-07
	● 書評 『ファミリー・バイオレンスと地域社会 : 臨床社会学の視点から』井上眞理
	子著, 岩井 宜子 犯罪社会学研究 = Japanese journal of sociological criminology /
	日本犯罪社会学会 編(45)141-145, 2020
	● 特別講演 犯罪学から日本の刑事法システムへの提言, 岩井 宜子 犯罪学雑誌 =
	Acta criminologiae et medicinae lagalis Japonica 86 (2), 36-44, 2020-06
	● 「青少年問題」・少年法と私,岩井 宜子 青少年問題 68 (新年),6-11,2021-01
	● 講演 精神障害者との共生社会を求めて, 岩井 宜子 法と精神医療 = Japanese
	journal of law and psychiatry / 法と精神医療学会 編 (36) 119-138, 2022
	● 刑法改正 : 自由刑の単一化, 岩井 宜子 犯罪学雑誌 = Acta criminologiae et
	medicinae lagalis Japonica 88 (4), 87-95, 2022-12
指宿 信	● 「治療的司法」の今とこれから : 日本における更生支援型刑事司法を考える, 指宿
	信 法と心理 = Japanese journal of law and psychology / 法と心理学会機関誌編集
	委員会 編 18 (1), 14-20, 2018-10
	● 治療的司法とは何か, 指宿 信 法と精神医療 = Japanese journal of law and
	psychiatry / 法と精神医療学会 編 (34) 43-52, 2019
	● 取調べ録音録画媒体の実質証拠化とその規律-新たな証拠法則の提案, 指宿 信
	判例時報 2416 112-119, 2019
	● 井戸田先生の「公訴権濫用論」をめぐって, 指宿 信 犯罪と刑罰 (28) 91-108, 2019-
	03
	● 刑事司法過程における確証バイアス, 伊東 裕司, 指宿 信, 厳島 行雄, 吉井 匡,
I. 10 I. 10	仲 真紀子 日本心理学会大会発表論文集 83 (0), SS-051-SS-051, 2019-09-11
南 保輔	● ターニングポイントはポイントではなくプロセスである:薬物依存からの回復にお
	ける「労役経験」, 南 保輔, 成城文藝(240)432-417 2017 年 6 月
	● スタッフを続けるのもおまかせ:ダルクスタッフAさんのライフヒストリー, 南
	保輔, コミュニケーション紀要(29) 13-40 2018 年 3 月
	● 薬物依存者リハビリテーション施設における SMARPP:フィールド調査に見られ
	る効果 , 南 保輔, コミュニケーション紀要 (30) 13-34 2019 年 3 月
	● 映像作品の順位づけと想起の問題:AV機器を利用した相互作用分析の応用, 南
	保輔, コミュニケーション紀要 (30) 35-47 2019 年 3 月
	● ことば遊び表現のある映像作品の評価:相互作用における「わかる」のコミュニケーション診り研究。南、保輔・コミュニケーション紀票(21)172 188 2020 年 2 日
	ーション論的研究,南 保輔,コミュニケーション紀要(31)173-188 2020 年 3 月 ■ 国籍をまなど体存からの回復:薬物体存からの回復におけるワークの研究。コミュ
	● 国境をまたぐ依存からの回復:薬物依存からの回復におけるワークの研究, コミューケーション紀票 (22) 27 51 2021 年 2 日
	ケーション紀要(32) 37-51 2021 年 3 月

#### 山本 輝之

- 措置入院と医療保護入院の関係性-非自発入院制度の運用をめぐって- 措置入院と 医療保護入院の関係性 -それぞれの存在意義、正当化根拠および要件について-, 山本 輝之,精神神経学雑誌 (2017 特別号) S210-S210 2017 年 6 月
- 「医療と司法の境界例」と精神科救急 相模原事件が示唆するもの 相模原事件が示唆する刑事司法の課題,山本 輝之,日本精神科救急学会学術総会プログラム・抄録集 25 回 65-65 2017 年 11 月
- 措置入院制度の問題点について(林美月子教授退職記念)山本 輝之、立教法学 = St. Paul's review of law and politics (97) 106-89 2018 年
- 【"二重の不幸"から 100 年~わが国の精神医療がたどった道とこれから~】 わが 国における強制入院制度の現状とこれから, 山本 輝之, 心と社会 49(2) 42-49 2018年6月
- 医療観察法と司法医療体制の改革:刑事司法と精神医療との連携についての提言, 山本 輝之 司法精神医学 / 日本司法精神医学会 編 14(1),35-40,2019-03
- 新型コロナウイルス感染症に対する法学部の対応, 山本 輝之 成城教育 / 成城学 園教育研究所 編 (190) 21-24, 2021-03-30
- 講演を受けての指定発言,山本 輝之 司法精神医学 / 日本司法精神医学会 編 18
  (1),41-44,2023-03
- 医療観察法をめぐる判例・実務, 山本 輝之 刑事法ジャーナル 77 39-48, 2023
- 医療観察制度の現在, 山本 輝之 罪と罰 60(3), 6-19, 2023-06

# 安部 祥太

- 刑事政策研究室 被疑者取調べと「法と心理学」:規範論による適正化と経験論による高度化,安部 祥太 罪と罰 54(4),128-138,2017-09
- 韓国における被疑者取調べ録音・録画:現在地と課題を日本と比べながら,安部 祥太 熊本法学 = Kumamoto law review (141) 2017-12
- <論説>韓国における常習窃盗罪をめぐる近時の議論状況について, 安部, 祥太 治療的司法ジャーナル (1) 21-36, 2018-03-15
- 刑事訴訟法入門 「犯人」の権利を守るのはなぜか?, 安部 祥太 法学セミナー 63 (4), 38-43, 2018-04
- ◆ 未来志向で学ぶ外国法(第 6 回)刑務所処遇における国際人権の追求:韓国,安部 祥太 法学教室 (492) 4-7, 2021-09
- 視覚障害者に関する刑事政策上の課題, 安部, 祥太, Abe, Shota 法と政治 72 (3), 85(1011)-124(1050), 2021-11-30
- <論説>韓国における治療的司法研究と刑事司法実務, 安部, 祥太 治療的司法ジャーナル (5) 16-33, 2022-03-15
- 交通事件の手続, 安部 祥太 法学教室 (507) 36-41, 2022-12

#### 金澤 由佳

- 『犯罪白書』で述べられる「精神障害者等」による犯罪:昭和 35~平成 28 年版 『犯罪白書』全 57 冊の分析,金澤 由佳 長崎国際大学論叢 18 135-147, 2018-03-31
- 精神障害者に対する強制的な医療からの示唆,金澤 由佳 老年精神医学雑誌 / 「老年精神医学雑誌」編集委員会 編 32(2),181-186,2021-02

- <論説>「TJ」と「TC」からなる日本型「治療的司法」の考察~国会議事録を手がかりに~金澤, 由佳 治療的司法ジャーナル (4) 3-9, 2021-03-15
- 書評 岡邊健編『犯罪・非行からの離脱(デジスタンス)』金澤 由佳 現代の社会病理 = Journal of social problems / 日本社会病理学会 編 (37) 173-175, 2022
- 薬物犯罪による保護観察対象者の 1 年後転帰に関する検討: 保護観察から地域精神保健的支援への架け橋「Voice Bridges Project」宇佐美 貴士, 熊倉 陽介, 高野 歩, 金澤 由佳, 松本 俊彦 日本アルコール・薬物医学会雑誌 57(3),143-157,2022-06
- <論説>措置入院、医療観察法指定医療機関入院について考える: インタビューからの考察金澤, 由佳 治療的司法ジャーナル(6)20-30,2023-03-15
- 摂食障害と窃盗症を抱える女性との文通:「中」から届く「7枚」金澤 由佳 罪と 罰 60(3),79-91,2023-06
- 薬物犯罪による保護観察対象者の地域支援からの脱落 保護観察から地域精神保健的支援への架け橋「Voice Bridges Project」 堤 史織, 宇佐美 貴士, 高野 歩, 熊倉陽介, 金澤 由佳, 松本 俊彦, 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所年報 (36) 206-206 2023 年 7 月

### 島 亜紀

- Qualitative Analysis of Interviews with Municipal Officers Toward the Human-Centered Improvement of the eLen Regulation Database System, Aki Shima, Tokuyasu Kakuta, Human-Centric Computing in a Data-Driven Society, HCC 2020.
- アメリカの刑事収容施設における教育プログラムの提供と The Inside-Out Prison Exchange Program, 島亜紀, 治療的司法ジャーナル (3) 2-8 2020 年 3 月
- IFIP Advances in Information and Communication Technology, vol 590. Springer 86-99 2020 年 11 月
- Mapping Similar Provisions Between Japanese and Foreign Laws, Hiroki Cho, Ryuya Koseki, Aki Shima, Makoto Nakamura, New Frontiers in Artificial Intelligence 36-50 2023 年 4 月 6 日

# 東本 愛香

- 性犯罪者処遇プログラムのエッセンス, 東本 愛香 更生保護 / 日本更生保護協会 編 69 (2), 6-11, 2018-02
- 受刑者のメンタルヘルスと再犯予防, 東本 愛香, 富澤 智史 こころの科学 (199) 97-104, 2018
- サイコパス(反社会性パーソナリティ障害)と治療, 東本 愛香, 吉岡 眞吾 精神科 = Psychiatry / 精神科編集委員会 編 35 (2), 205-211, 2019-08
- わが国の性犯罪者処遇について,もう一度考えてみよう:制度見直しを見据えて, 東本 愛香 法と精神医療 = Japanese journal of law and psychiatry / 法と精神医療 学会 編 (35) 11-23, 2020
- 性犯罪者処遇プログラム検討会を経て動き出すこと, 東本 愛香 更生保護 / 日本 更生保護協会 編 73 (8), 6-12, 2022-08
- 司法精神保健における対話の取り組み:刑事施設における関わりの中で,東本 愛香精神科治療学/「精神科治療学」編集委員会編 37(10),1075-1080,2022-10

#### 58

# 菅原 直美

- 弁護士の立場から, 菅原 直美 法と精神医療 = Japanese journal of law and psychiatry / 法と精神医療学会 編 (34) 69-73, 2019
- 現行制度のままで実現可能な「日本版ドラッグ・コート」: ハワイ州マウイ島と シドニーの各ドラッグ・コート視察からの考察と展望, 菅原, 直美 治療的司法ジャーナル (2) 3-5, 2019-03-15
- フロントランナーの肖像(No 48)特別対談 それでも私たちは前進する 司法と福祉 の現場に立ちふさがる見えない壁への「挑戦」, 菅原 直美, 坂本 千花, 山口 和史, 浅川 淑子 弁護士ドットコム / 「月刊弁護士ドットコム」編集部 編 48 4-11, 2019-09-01
- この弁護士に聞く(31)菅原直美 情状弁護こそ、法廷の真ん中が似合う,菅原 直美, 加藤 梓,長谷川 翼 刑事弁護(101)4-7,2020
- この弁護士に聞く(42)中山博之 弁護人が法廷をデザインする,中山 博之,菅原 直美 刑事弁護 (112) 4-7, 2022
- 保護司活動で感じる限界と可能性, 菅原 直美 都市問題 114(5), 12-17, 2023-05
- 菅原直美弁護士の推しの 5 冊, 弁護士ドットコムタイムズ 69 27-, 2023-12-01

# 森村たまき

- <翻訳>デイビッド・B・ウェックスラー著,新たなワインを新たなボトルに:刑事手続と実務提案に関する治療的法学の「法典(Code)」を素描する必要性,森村,たまき,ウェックスラー,デイビッド・B治療的司法ジャーナル(2)6-16,2019-03-15
- <翻訳>治療法学と問題解決型裁判所, ウィニック, ブルース・J, 森村, たまき 治療的司法ジャーナル (4) 10-29, 2021-03-15

#### 山田恵太

- 「第 2 分科会 司法と福祉の支援のギャップを洗い流す:罪に問われた障害がある 人の支援に焦点化して(日本司法福祉学会第 17 回大会 司法福祉学のこれから)」, 司法福祉学研究 17 号, 2017
- 書評『訴訟能力を争う刑事弁護』(Genjin 刑事弁護シリーズ(18))訴訟能力研究会編」、精神医療 87 号、2017
- 「刑事政策と治療的司法―再犯防止を目指した新たな手続モデル―」罪と罰 55 巻 2 号 (2018 年) 111~120 頁
- 「第 4 分科会 更生支援を当事者はどう見ているか:支援を受けた本人の"語り"から,司法と福祉の連携を批判的に検証する(日本司法福祉学会第 18 回大会 多様な人々の共生と司法福祉学)」,司法福祉学研究 18 号,2018
- 障害のある人の刑事弁護: 事例報告を中心に, 山田 恵太 法と心理 = Japanese journal of law and psychology / 法と心理学会機関誌編集委員会 編 18 (1), 3-5, 2018-10
- 介護保障ネット〈事例報告〉(第 20 回)独居を見据えた申請において 24 時間介護が 実現した事例 介護保障を考える弁護士と障害者の会全国ネット, 山田 恵太 賃金 と社会保障 = Wage & social security (1735・1736) 84-95, 2019-08
- 大会シンポジウム 司法福祉学について再び考える, 坂野 剛崇, 三品 竜浩, 橘 ジ

#### 59

- ュン, 原 敬, 山田 恵太, 水藤 昌彦, 森久 智江 司法福祉学研究 = Japanese journal of forensic social services (20) 118-122, 2020
- 座談会 依存症弁護を考える, 遠藤 直也, 神林 美樹, 林 大悟, 山田 恵太 刑事弁 護 (113) 49-61, 2023

## 丸山 泰弘

- アメリカの薬物政策の動向: 自己使用者へのトリートメントは「厳罰化」か「非刑罰化」か, 丸山 泰弘 アディクションと家族 = Japanese journal of addiction & family: 日本嗜癖行動学会誌 / 家族機能研究所 編 33 (1), 7-10, 2017-11
- 日本における薬物政策の課題:海外との比較から,丸山 泰弘 精神科治療学 / 「精神科治療学」編集委員会編 32 (11), 1465-1470, 2017-11
- 社会福祉の立場から見た判決前調査 米国との比較から, 戸井 宏紀 須藤明・岡本吉生・村尾泰弘・丸山泰弘 (編)『刑事裁判における人間行動科学の寄与 情状鑑定と判決前調査』 222-240, 2018
- 刑事裁判の今日的課題と情状鑑定, 武内 謙治 須藤明=岡本吉生=村尾泰弘=丸山泰弘編著『刑事裁判における人間行動科学の寄与──情状鑑定と判決前調査』(日本評論社) 02-18,2018
- 薬物政策の新動向〜規制を用いた統制から『その人らしく生きる』ことを支える政 策へ〜, 丸山 泰弘 犯罪社会学研究 43 136-143, 2018
- 第 7 分科会 我が国における臨床心理士およびソーシャルワーカーの司法実践 (Forensic Practice): 日米の比較も踏まえて, 須藤 明, 岡本 吉生, 戸井 宏紀, Valarie Mitchell, 丸山 泰弘 司法福祉学研究 = Japanese journal of forensic social services (18) 148-152, 2018
- アメリカの薬物政策: 刑事司法で行う福祉~アメリカの挑戦~, 丸山, 泰弘 龍谷 法学 50(3), 42-, 2018-02-09
- 自由刑の単一化と薬物事犯, 丸山 泰弘 犯罪と刑罰 (27) 51-72, 2018-03
- 刑事司法における薬物依存治療プログラムの意義: 回復する権利と義務, 丸山 泰 弘 刑法雑誌 = Journal of criminal law / 日本刑法学会 編 57 (2), 229-247, 2018-03
- ドラッグ・コートの日本的展開は可能か,丸山 泰弘 都市問題 110 (11), 19-23, 2019-11
- <海外短信>A Letter from Berkeley, 丸山, 泰弘 治療的司法ジャーナル (3) 19-21, 2020-03-15
- <海外短信>NADCP (ドラッグ・コート専門家会議) レポート, 丸山, 泰弘 治療的 司法ジャーナル (3) 16-18, 2020-03-15
- <特別寄稿>ペギー・ホラ判事追悼: My Memories with Peggy Fulton Hora Will Be Forever Cherished, 丸山, 泰弘 治療的司法ジャーナル (4) 2-2, 2021-03-15
- 刑事罰に頼らない薬物政策は可能か, 丸山 泰弘 罪と罰 59(1), 109-117, 2021-12
- 日本の大麻問題とポルトガルの実践, 丸山 泰弘 石塚伸一ほか編,大麻使用は犯罪か?--大麻政策とダイバーシティ--,現代人文社 172-192, 2022

- 大会企画シンポジウム 若年者と司法福祉, 須藤 明, 丸山 泰弘, 中村 正, 鴻巣 麻 里香, 中澤 未美子, 福永 佳也, 半澤 利一, 大塚 英理子 司法福祉学研究 = Japanese journal of forensic social services (22) 126-132, 2022
- 2022 年タイ薬物法典と薬物政策の転換, 丸山 泰弘 龍谷大学矯正・保護総合センター研究年報 = Ryukoku Corrections and Rehabilitation Center journal / 龍谷大学矯正・保護総合センター 編 (12) 40-50, 2022
- <論説>大麻使用罪創設の何が問題か,丸山,泰弘 治療的司法ジャーナル (5) 10-15, 2022-03-15
- 問題解決型裁判所が解決すべき「問題」とは何か, 丸山 泰弘 龍谷法学 55 (4), 135-, 2023-03-15
- 関係者たちの"Stand By Me", 丸山 泰弘 刑政 134 (5), 78-79, 2023-05
- 誰がために「改善更生」の鐘は鳴る, 丸山 泰弘 刑政 134(9), 64-65, 2023-09
- 大麻使用罪の創設をめぐる議論から「その人らしく生きる」を考える, 丸山 泰弘 法学セミナー 68(11), 44-50, 2023-11

# キャロル・ ローソン

- ローソン キャロル「Plain English Style で極める英文契約書作成」[Perfecting Contract Drafting using Plain English] ビジネス法務 [*Japan Business Law Review*] 18 巻 4 号~9 号(連載)(中央経済社、2018 年)
- Stacey Steele, Carol Lawson, Mari Hirayama and David T Johnson, 'Lay
  Participation in Japanese Criminal Justice: Prosecution Review Commissions, the
  Lay-Judge System and Penal Institution Visiting Committees' (2020) 7(1) Asian
  Journal of Law and Society 159-189
- Carol Lawson, 'Japan: Satoshi Tomiyama, Director-General of the Correction Bureau' in Dilip K Das and Philip Birch (eds) Trends in Corrections: Interviews with Corrections Leaders Around the World Vol 3 (Routledge, 2020) 127-148.
- ローソン キャロル「脱応報主義:オーストラリア首都特別地域の治療的司法の 試み」[Leaving Retribution Behind: Therapeutic Justice Initiatives in the Australian Capital Territory] 早稲田社会安全政策研究所紀要 [Waseda Institute of the Policy of Social Safety (WIPSS) Bulletin] 12 号 (2021 年) 31-49 項
- ローソン キャロル「アンケート調査を通しての日本の高齢男性受刑者:特徴的なコホート」[Japan's Older Male Prisoners: A Distinctive Cohort Seen Through Survey Data] 細井洋子・辰野文理編著『高齢者犯罪の総合的研究―社会保障、雇用、家族、高齢化を視野に比較文化的に考察する』[Understanding Elderly Crime: Comparative Cultural Studies through the Lenses of Social Security, Employment, Families & Aging] (風間書房、2021年) 145-184項
- Carol Lawson, 'Subverting the Prison: the Incarceration of Stigmatised Older Japanese' (2021) 17 International Journal of Law in Context 336-355

● 「オーストラリア首都特別区における治療的司法:ポストコロナ期における考察 Therapeutic Justice Initiatives in the Australian Capital Territory: A Post-COVID Update」ローソン キャロル治療的司法ジャーナル [Therapeutic Jurisprudence Journal] 6号 (2023 年) 2-19 項

# (3) 所属メンバー学会報告一覧

氏 名	学会・シンポジウム等の名称・役割等
指宿 信	Age of Genesis for TJ in Japan Congress of the IALMH (International Academy)
	for Law and Mental Health), プラハ、チェコ 2017.7.1 オーガナイザー兼報告
	● アディクションからの回復支援のネットワークの可能性―司法と福祉、理論と実践
	は、分かりあえるのか?第 2 回犯罪関連 6 学会合同シンポジウム、國學院大學
	2017.9.1 コーディネーター
	● 「治療的司法」の今とこれから:日本における更生支援型刑事司法を考える
	第 18 回法と心理学会公開シンポジウム、成城大学 2017.10.15 報告
	● "入り口"支援は悪なのか?:治療的司法概念に基づく回復支援・問題解決型司法を
	考える 2018 年犯罪社会学会、西南学院大学 2018.11.13 オーガナイザー
	Japanese style of therapeutic jurisprudence: How can we put the new wine into the
	old bottle? ANZAPPL (Australia and New Zealand Psychiatry, Psychology and Law),
	2018 in Tasmania, Australia 23rd, Nov. 2018 学会個別報告
	● 治療的司法とは何か シンポジアム「司法と医療の連携による更生支援型刑事司法
	を考える」 北海道大学 法と精神医療学会 2019.3.9
	● 治療的司法論の観点から 刑法学会第 97 回大会、第三分科会、刑事司法における
	薬物依存への介入、一橋大学 2019.5.25 指定討論者
	Current Movement of Rehabilitation Oriented Policy and Criticism in Japan
	Congress for IALMH, ローマ、イタリア 22nd, July, 2019 オーガナイザ
	一兼報告
	• James M. Anderson, Maya Buenaventura & Paul Heaton, "THE EFFECTS OF
	HOLISTIC DEFENSE ON CRIMINAL JUSTICE OUTCOMES"の紹介 刑法読書
	会 2019 年冬期集中例会、立命館大学朱雀校舎研究会報告 2019.12.26
	Therapeutic Approach for Criminal Defense in Japan
	第 12 回アジア犯罪学会(オンライン)June, 2021 オーガナイザー兼報告
	● 刑事司法は<社会問題>をどのように視野に入れるか~「情状」とは何かをとおし
	て考える 社会病理学会特別企画(オンライン)2022.1.10 指定討論者
	Japanese Trend of the Therapeutic Jurisprudence : Looking back and looking into
	the future Congress for IALMH, リヨン、フランス 6th June, 2022 オーガナイザ
	一兼報告
	● 治療的司法論の観点から 日本犯罪心理学会公募シンポジウム「ハイリスク・
	ストーカーへの法と臨床」2023.9.23-24 コメンテーター
南 保輔	● 視覚障害者の「知覚」を焦点とする情報授受:歩行訓練場面における触覚と「これ」
	の組み合わせ使用, 南 保輔, 西澤 弘行, 坂井田 瑠衣, 佐藤 貴宣, 秋谷 直矩, 吉
	村 雅樹、EMCA研究会 2018 年度秋の研究大会 2018 年 10 月 28 日
	● 2つの場所定式化のあいだの競合と相補:視覚障害者と晴眼者との相互作用におけ

る非対称的な参加資源,南保輔,西澤弘行,坂井田瑠衣,佐藤貴宣,秋谷直矩, 吉村雅樹,非対象インタラクション会議2019年6月18日

- 視覚障害者と晴眼者のあいだの相互作用における指示の確立:歩行訓練におけるタッチと「これ」の組み合わせ使用,南保輔,西澤弘行,坂井田瑠衣,佐藤貴宣,秋谷直矩,吉村雅樹、国際エスノメソドロジー・会話分析協会大会 2019 年7月4日
- 日本の NA メンバーによる、自分自身の話をすることという実際, 南 保輔, 岡田 光弘, アメリカ社会学会第 115 回大会 2020 年 8 月 10 日
- 薬物依存回復施設におけるグループワークの会話分析:経験・状態・トラブルソースに関わる報告を終わらせないこと,南保輔 第3回会話分析研究発表会 2020 年9月3日
- 薬物依存者の回復ワークの研究:認知行動療法のインタラクション分析, 南 保輔 第 93 回日本社会学会大会 2020 年 11 月 1 日

#### 安部 祥太

- 韓国における被疑者取調べの憲法的規制と司法積極主義 安部祥太 第 13 回「韓・朝鮮半島と法」研究会 2017 年 11 月 4 日
- 改正刑訴法 301 条の 2 は被疑者取調べの何を変えるか 安部祥太 第 20 回被疑者 取調べ録画研究会 2017 年 12 月 1 日
- 日韓両国における『死刑』と代替刑に関する議論状況――『国際化』を鍵として(한皇 양국에서의 『사형』과 대체형에 관한 논의 상황──『국제화』를 중심으로) 安部祥太 第2回日韓刑事法研究会合同学術セミナー 2019 年11月1日
- 裁判員裁判において録音・録画記録媒体のうち音声のみが証拠採用された事例—— 東京地決令和元年7月4日 安部祥太 現代刑事法研究会 2019年11月23日
- 被疑者取調べの憲法的規制 安部祥太 日本刑法学会第 99 回大会 2021 年 5 月 29 日 日本刑法学会
- 視覚障害者と刑事司法 安部祥太 大阪刑事訴訟法研究会 2022 年 3 月 19 日
- ワークショップ「刑事手続における視覚障害者の権利保障」 渡辺顗修, 山﨑茜, 板原愛, 堀田零生, 山田直子, 安部祥太法と言語学会第 15 回年次大会 2023 年 12 月 10 日 法と言語学会

#### 金澤 由佳

- 社会福祉と医療の法制度化が表しているものー精神保健福祉法一部改正法律案と 手がかりにー 金澤由佳 第33回 社会病理学会 2017年9月
- 日本における強制的な精神鑑定と医療 金澤由佳 長崎国際大学学術研究発表会 2018年3月
- <入院医療>の構造ー感染症法と精神保健福祉法との比較からの考察 金澤由佳 第 35 回 社会病理学会 2019 年 9 月
- (強制的な)精神科医療の役割 金澤由佳 第8回 更生保護学会 2019年12月
- 日本型「治療的司法」の行方 金澤由佳 第21回 法と心理学会 2020年10月
- 精神科医療における人権制限 一改正新型インフルエンザ等特別措置法(2020)を手がかりに一 金澤由佳 第 16 回 司法精神医学会 2020 年 11 月

- 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行に伴う VBP および薬物依存症地域 支援への影響に関するアンケート調査~Voice Bridges Project:「声」の架け橋プロ ジェクト~ 金澤由佳,熊倉陽介,伴恵理子,宇佐美貴士,高野歩,松本俊彦 第9回 更 生保護学会 2020 年 12 月
- 刑法第39条の存在とは一旧刑法第40条に着目して一金澤由佳 第40回 社会精神医学会2021年3月
- Factors Associated with Post One-Year Illicit Drug Use among Persons on Probation in the Japanese Criminal Justice system: A Prospective Cohort Study Takano A, Ban E, Usami T, Kanazawa Y, Kumakura Y, Matsumoto, The College on Problems of Drug Dependence (CPDD) 83rd Annual Scientific Virtual Meeting
- 医療観察法指定医療機関入院の2つの事例ー短期と長期ー 金澤由佳 第10回 更 生保護学会 2021 年12 月
- 行政上の「精神障害者」の構造~精神保健福祉法からの考察~ 金澤由佳 第 37 回 社会病理学会 2022 年 1 月
- Risk and preventive factors associated with illicit drug use among male methamphetamine users on probation in Japanese criminal justice system: a one-year prospective cohort study, Ayumi Takano, Takashi Usami, Yuka Kanazawa, Yousuke Kumakura, Toshihiko Matsumoto, The College on Problems of Drug Dependence (CPDD) 84th Annual Scientific Meeting 2022 年 6 月
- 「新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)の流行に伴う VBP および薬物依存症地域支援への影響に関するアンケート調査 vol.2」 金澤由佳, 熊倉陽介, 宇佐美貴士, 堤史織, 高野歩, 松本俊彦 第 18 回 司法精神医学会 2022 年 7 月
- 窃盗症を抱える女性の記録-2 年間にわたる「中と外」での文通- ,金澤由佳 女 性犯罪研究会 2022 年 8 月
- 薬物事犯者における保護観察対象者のコホート研究~Voice Bridges Project~ 宇 佐美 貴士, 熊倉 陽介, 高野 歩, 金澤 由佳, 堤 史織, 松本 俊彦第 119 回日本精 神神経学会 2023 年 6 月
- 精神科医療における人権に配慮した法制度構築に関する研究-措置入院、医療保護入院、任意入院経験者のインタビュー調査からの考察-,法と精神医療学会 2023 年 12 月
- 医療保護入院経験者の語りから見えてくるもの ―「入院時」・「入院中」・「退院時」 ― 第 12 回更生保護学会 2023 年 12 月

## 島 亜紀

- eLen and Xelen Regulation Database System, Aki Shima, Seminar on Japanese research activities about legal informatics, IGSG-CNR, Florence, Italy 2019 年 9 月 3 日
- The Inside-Out Prison Exchange Program 壁を越えて共に学ぶプログラムと日本 における実現可能性 — 島 亜紀 日本犯罪社会学会 2019 年 10 月 19 日
- 裁判員裁判の「評議」はいかなる空間か?:裁判員経験者の発言の量的・質的分析

島亜紀 日本犯罪社会学会 2020年10月3日

- 裁判員裁判の「評議」はいかなる空間か?:裁判員経験者の発言の量的・質的分析 島亜紀 法意識研究会 2020 年 11 月 9 日
- 主体的・対話的なライティング教育-イギリスに学ぶ授業設計と実践報告- 島亜 紀 大学教育研究フォーラム 2022 年 3 月 16 日
- The Public Sphere of Deliberations in Saiban-in Trials in Japan: Insights from a
  Thematic Analysis of Former Saiban-ins' Remarks, Aki Shima The 2022 Global
  Meeting on Law & Society in Lisbon 2022 年 7 月 16 日
- 裁判員裁判における「評議」という公共性の空間―裁判員経験者の発言の質的分析 島亜紀 日本法社会学会関東研究支部 2022 年 10 月 8 日
- 大学院におけるライティング教育の意義と課題ー神奈川大学大学院での実践を踏まえて,島亜紀 神奈川大学大学院法学研究科 FD 懇談会 2023 年 2 月 16 日

# 東本 愛香

- 再犯防止のために、私たちは何を学ぶのか? 東本愛香 平成30年度高松矯正管 区教誨師研修会
- 性犯罪者処遇の実際と実践の可能性, 東本愛香 性犯罪に関する施策検討に向けた実態調査ワーキンググループ (第6回)
- 少年院・少年刑務所における保護要因評価尺度の活用の取り組み, 東本愛香, 西中 宏吏, 五十嵐禎人 日本司法精神医学会大会第 17 回大会
- Report on the current status and diffusion of risk assessment., Aika Tomoto Asian Criminological Society 12th Annual Conference
- 刑務所における認知行動療法 ~社会で更に生きるために~ 東本愛香 関東更生 支援ネットワーク 第 2 回 再犯防止・更生支援セミナー 2021 年 7 月 13 日
- 保護観察所における性犯罪者処遇の在り方に関する調査,東本愛香,田中美以,高 尾正義,山口保輝,西中宏吏,大塲玲子,五十嵐禎人,日本司法精神医学会大会第 16 回大会
- 加害者支援におけるプログラムの理論と実践(入門), 東本愛香 日本家族心理学 会第 38 回大会

# 丸山 泰弘

- 刑事司法における薬物依存治療プログラムの意義~回復する権利と義務~ 丸山泰 弘 日本刑法学会第 95 回大会 2017 年 5 月 21 日
- 刑事罰ではなく社会保障で取り組む薬物政策 丸山泰弘 第39回日本中毒学会 総会 2017年6月30日
- Contemporary Japanese Drug Policy: The First Step in Implementing Japanese Drug Policy without Punishment, Yasuhiro MARUYAMA, The 35th International Congress on Law and Mental Health 2017 年 7 月 14 日 International Academy of Law and Mental Health
- 【指定討論】日本における臨床心理士及びソーシャルワーカーの司法実践〜刑事政策学の立場から〜 第18回日本司法福祉学会(第2回犯罪学関連学会合同大会) 2017年9月3日

- Lowering the Age of Criminal Liability in Japanese Juvenile Systems, The 17th Annual Conference of European Society of Criminology 2017 年 9 月 15 日 European Society of Criminology
- A New Movement in Japanese Drug Policy: Aiming for Policies that do not Depend on Punishment, Yasuhiro MARUYAMA, 12th International Society for the Study of Drug Policy 2018年5月17日 International Society for the Study of Drug Policy
- Towards Japanese Penal Welfarism CSLS Visiting Scholars Speaker Series 2018年
   12月5日 Center for the Study of Law and Society, UC Berkeley
- 刑罰に依存しない依存症対策~日本やアメリカのように社会保障が脆弱な国はどうすべきか~ 丸山泰弘 JSPS 日本人研究者交流会 2019 年 8 月 10 日 日本学術振興会
- 薬物使用者に対する刑罰改革 丸山 泰弘 第75回大会 2019年11月15日アメリカ犯罪学会
- 我々はタイ王国から何を学ぶことができるか アジア犯罪学会 第 1 2 回大会 2021 年 6 月 18 日
- 薬物事犯者への刑罰改革について アジア犯罪学会 2021年6月18日
- 大麻使用罪の創設:世界の潮流と日本の薬物政策 オーガナイザー・司会・個別報告,法と経済学会 2021 年度(第 19 回)全国大会 2021 年 11 月 13 日 法と経済学会
- 刑事司法・少年司法の担い手教育~司法の課題と大学教育のこれから~ 立正大学 法学部創立 40 周年記念シンポジウム 2021 年 11 月 27 日 立正大学法制研究所・ 立正大学法学部
- 若年者と司法福祉 司会 日本司法福祉学会第 21 回大会 2021 年 12 月 11 日 日本司法福祉学会
- 問題解決型裁判所と減軽専門家の実践~日本への導入は可能か~ 丸山泰弘 日本 社会病理学会第 37 回大会 2022 年 1 月 10 日 日本社会病理学会
- The Penal Reform for People Who Use Drugs in JAPAN, Yasuhiro MARUYAMA International Academic of Law and Mental Health 第 36 回大会 2022 年 7 月 6 日 International Academy of Law and Mental Health
- タイにおける薬物政策の大転換~大麻を効果的に使う社会ができるとき~, 加藤武士, 石塚伸一, 【報告】丸山泰弘, 舟越美夏, 吉田緑, アルコール・薬物依存関連 学会合同学術総会 2022 年 9 月 9 日 アルコール・薬物依存関連学会
- 大麻規制の諸問題, 丸山泰弘=園田寿=正高佑志=古藤吾郎, 日本刑法学会第 101 回 大会 2023 年 6 月 4 日 日本刑法学会

渡邉 友美

共同発表「法学系学会の研究発表に関わる規程等の公開状況と、その課題:研究公 正教育の視点から」法と教育学会第13回学術大会ポスター発表、2022年

# 暮井真絵子

• "New Competency theory in Japan: Defendant Rights and Court Role", Maeko KUREI, 11th East Asian Association of Psychology and Law Annual Conference at National Taiwan Univ, Taipei, 16th Dec, 2017.

# (4) 所属メンバー獲得研究費一覧

氏 名	共同研究・競争的資金等の研究課題
岩井 宜子	● 犯罪少年の保護事件における鑑定・アセスメントの意義と内容:理論と実務 代表:
	丸山 雅夫 南山大学 2016-04-01 - 2018-03-31 (科研費)
	● 女性の再犯防止を目的とした司法と福祉のシームレスな連携システムに関する研
	究 代表: 宮園 久栄、基盤研究(B):社会福祉学関連、2022-04-01 - 2026-03-31 (科
	研費)
指宿 信	● 取調過程の言語使用の実証的・学際的分析により言語研究の社会的寄与を目指す研
	究 代表:堀田 秀吾 明治大学 2015-04-01 - 2018-03-31 (科研費)
	● 司法手続きにおける確証バイアスの解明と克服方法の検討:法学・心理学の学際的
	研究 代表:伊東 裕司 慶應義塾大学 2017-04-01 - 2020-03-31 (科研費)
	● 法学・心理学・脳神経科学の学際的研究による取調の適切性を評価する客観的尺度
	の構築 代表:山崎 優子 駿河台大学, 立命館大学 2018-06-29 - 2024-03-31 (科
	研費)
	● 取調べ技法・記録媒体が変える「事実」認定―量的分析・ディスコース分析を踏ま
	えて 代表:山田 直子 関西学院大学 2019-04-01 - 2023-03-31 (科研費)
	● 脱刑事罰処理を支える「治療法学」の確立に向けた学融的総合的研究 代表:指宿
	信 成城大学 2019-04-01 - 2024-03-31 (科研費)
	● 日本版司法取引制度の受諾要因の実験心理学的検討 代表: 若林 宏輔 立命館大学
	2022-04-01 - 2027-03-31 (科研費)
	● データ越境時代におけるホリスティックな研究手法の開発 代表:指宿 信 成城大
	学 2022-06-30 - 2027-03-31 (科研費)
南 保輔	● AV機器を利用した相互作用分析の応用 成城大学 特別研究助成 2016年4月 -
	2018年3月 代表:南 保輔
	● 薬物依存者の「回復」コミュニティのミクロ社会学的研究 日本学術振興会 科学研
	究費助成事業 基盤研究(C) 基盤研究(C) 2017 年 4 月 - 2020 年 3 月 代表: 南 保
	輔,相良 翔,中村 英代
	● 相互作用における「わかる」のコミュニケーション論的研究 成城大学 特別研究
	助成 2018年4月 - 2019年3月 代表:南 保輔
	● 世界の「見え」の共有技法の研究:視覚障害者と晴眼者の相互行為分析 日本学術
	振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 基盤研究(C) 2018年7月 - 2021年3月
	代表: 秋谷 直矩, 南 保輔, 西澤 弘行, 佐藤 貴宣, 坂井田 瑠衣
	● 世界の「見え」の共有技法の研究:視覚障害者と晴眼者の相互行為分析 代表 秋
	谷 直矩 山口大学 2018-07-18 - 2023-03-31 (科研費)
	● 薬物依存からの回復におけるワークの研究 成城大学 特別研究助成 代表:南 保
	輔 2020年4月-2022年3月
	● 非対称的インタラクションへの対照統合的接近: 触覚の現象学的社会学構想とデザ

	T
	イン 日本学術振興会 科学研究費助成事業 挑戦的研究(萌芽) 挑戦的研究(萌芽) 2020年7月 - 2022年3月 代表:南保輔,岡田光弘,西澤弘行,坂井田瑠衣
	● ダルクにおける就労支援の位置づけと実践的方法論の複合的包括的なミクロ社会 学研究 代表:南 保輔 成城大学 2023-04-01 - 2027-03-31 (基盤研究(B)科研費)
山本 輝之	● 刑事政策と精神科医療 代表:山本 輝之 2016-04-01 - 2019-03-31 (科研費) ● 臨床研究における刑事規制の総合的検討―「被験者保護法」モデルの構築を目指し
	<ul><li>■ 端外研究におりる刑事規制の総合的便的 「被験有保護法」モデルの備業を目指して 代表:城下 裕二(北海道大学) 2017-04-01 - 2020-03-31(科研費)</li></ul>
	● 臓器移植法制・法政策の包括的再検証―改正法施行 10 年目の現況を踏まえた提言
	代表:城下 裕二(北海道大学) 2020-04-01 - 2023-03-31(科研費)
	● 刑事司法と精神科医療のシームレスな連携による精神障害犯罪者処遇制度 代表: 山本 輝之 2020-04-01 - 2024-03-31 (科研費)
安部 祥太	● 東アジア圏における刑事法ならびに刑事司法の改革に関する研究 成城大学 特別
	研究助成 2018 年 4 月 - 2020 年 3 月 代表:指宿信、安部祥太
	● 再審制度の比較法的研究 成城大学 特別研究助成 2020 年 4 月 - 2022 年 3 月 代
	表:指宿信、安部祥太
	● 刑事手続における視覚障がい者の権利保障に関する実態調査:ノーマライゼーション・のな用にないて、ハギサロは L 日台連は変更変サロ 2021 ケ 2 日 ファンド
	ンの実現に向けて 公益財団法人 日弁連法務研究財団 2021年2月 研究主任, 渡 辺顗修
金澤 由佳	● 精神障害者および触法精神障害者に対する強制的な医療と支援の包括的研究 日本
亚什 山口	学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究 2019 年 4 月 - 2024 年 3 月 代表: 金
	澤由佳
島 亜紀	● 裁判員裁判の評議はいかなる「公共性の空間」なのか? -裁判員の認識の量的・質
	的分析 日本学術振興会 科学研究費助成事業 研究活動スタート支援 研究活動
	スタート支援 2019 年 8 月 - 2022 年 3 月 代表:島 亜紀
	● 裁判員制度の問題点に関する実証分析と比較法制度研究 日本学術振興会 科学
	研究費助成事業 基盤研究(C) 2022 年 4 月 - 2027 年 3 月 代表:島亜紀
東本 愛香	● 刑事施設における薬物事犯者の反社会性に応じた薬物依存離脱指導法の開発と検
	討 日本学術振興会 科学研究費助成事業 研究活動スタート支援 研究活動スター
	ト支援 2015 年 8 月 - 2017 年 3 月 代表:野村 和孝,五十嵐 禎人,東本 愛香, 西中 宏吏
	● 再犯予防とこころの健康 - 初犯と累犯の検討から - 日本学術振興会 科学研究費
	助成事業 基盤研究(C) 基盤研究(C) 2015 年 4 月 - 2018 年 3 月代表: 東本 愛香,
	五十嵐 禎人,後藤 弘子,伊豫 雅臣,黒田 治,新海 浩之
	● 犯罪少年の保護事件における鑑定・アセスメントの意義と内容:理論と実務 日
	本学術振興会 科学研究費助成事業 挑戦的萌芽研究 挑戦的萌芽研究 2016 年 4 月
	- 2018 年 3 月 代表:丸山 雅夫, 峰 ひろみ, 東本 愛香, 飯野 海彦, 渡邊 一弘,
	山中 友理, 柑本 美和, 町野 朔, 岩瀬 徹, 岩井 宜子, 吉岡 眞吾, 吉中 信人, 柴

田 守, 荻野 太司, 水留 正流, 服部 朗

- 就労支援を受けた刑事施設等出所者の就労維持に関する心理-社会的要因 日本学 術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 基盤研究(C) 2019 年 4 月 2022 年 3 月 代表:東本 愛香,西中 宏吏,五十嵐 禎人,後藤 弘子
- 女性の再犯防止を目的とした司法と福祉のシームレスな連携システムに関する研究 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(B) 基盤研究(B) 2022 年 4 月 2026 年 3 月 代表: 宮園 久栄
- 知的・発達障がい児を対象とした性的問題行動のセルフレギュレーションモデルの 創出 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 基盤研究(C) 2023 年 4 月 - 2026 年 3 月 代表:安藤 久美子

# 丸山 泰弘

- 刑事司法と福祉の連携に関する試行モデルの検証と制度設計のための総合的研究 日本学術振興会 基盤研究(A) 2014 年 4 月 - 2018 年 3 月 代表:土井 政和
- ハーム・リダクションの可能性に関する研究:刑事司法に依存しない薬物政策のために 日本学術振興会 若手研究(B) 2015 年 4 月 2018 年 3 月
- 刑事裁判に付された少年に対する判決前調査制度の構築に向けた研究 日本学術振興会 基盤研究 (C) 2016 年 4 月 2019 年 3 月 代表: 須藤 明
- 多様化する嗜癖・嗜虐行動からの回復を支援するネットワークの構築 科学技術振興機構(JST)社会技術研究開発センター(RISTEX) 戦略的創造研究推進事業 2017 年 4 月 2019 年 3 月
- A New Movement in Japanese Drug Policy: Aiming for Policies that do not Depend on Punishment, Open Society Foundation Asian Scholarship 2018 年 5 月 - 2018 年 5 月
- 刑事事件の情状鑑定における多職種協働チームの将来的展望 日本学術振興会 基 盤研究(C) 2019 年 4 月 - 2023 年 3 月 代表: 須藤 明
- 脱刑法罰処理を支える「治療法学」の確立に向けた学融的総合的研究 日本学術振興会 基盤研究(A) 2019年4月-2024年3月 代表:指宿信
- 麻酔薬物をめぐる政策、法律および法執行に関する比較研究:タイと日本の国際比較 日本学術振興会 二国間交流事業共同研究 / セミナー 2020 年 4 月 2023 年 3 月 代表:石塚伸一
- 「治療的司法」と問題解決型裁判所~制度改革のための理論構築と立法提言 日本 学術振興会 基盤研究 (A) 2020 年 4 月 - 2024 年 3 月 代表:正木 祐史
- 新自由刑と無期受刑者処遇に関する綜合的研究:日本型行刑における拘禁刑の社会 化 科学研究費補助金 基盤研究(B)(一般) 2023年4月-2026年3月 代表: 石塚 伸一

## 8. 社会還元

- (1) センター主催公開イベント
- 2017年6月10日

成城大学治療的司法研究センター設立記念講演会開催(参加者約150名)

\*当日、NHK 夜7時のニュースで報じられる。日本経済新聞、毎日新聞等でも紙面報道あり。

● 2018年7月21日

治療的司法研究センター設立1周年記念シンポジウム「"嗜癖行動"は止められるか —問題解 決型の刑事司法の導入を目指して—」(於 成城大学7号館4階007教室)(参加者100名)

● 2019年6月4日

治療的司法研究センター招待講演、成城大学法学部「刑事政策」公開授業(参加者約50名)

テーマ: The Inside-Out Prison Exchange Program

講師: Reiko Hillyer 教授(Lewis & Clark College)

コーディネーター:指宿信氏(センター長)

通訳: 佃陽子(成城大学准教授)

● 2023年3月18日

成城大学治療的司法研究センター設立5周年記念シンポジウム「新しい拘禁刑は何をもたらすか?」(於 成城大学3号館地下003教室)(参加者約100名)

- (2) YouTube チャンネル
- 成城大学治療的司法研究センターの移転記念イベント YouTube 生配信

「TJトーク in Seijo:治療的司法を語る!」

https://www.youtube.com/watch?v=ms988vFvJXw&t=320s

司会:指宿信氏(センター長)

紹介の部:治療的司法研究センター学生サポーター「治療的司法研究センターの案内」

トークの部:

ファシリテーター:菅原直美氏(センター客員研究員、弁護士)

登壇者:山田恵太氏(センター客員研究員、弁護士)、丸山泰弘氏(センター客員研究員、立正 大学教授)、三輪記子会員(弁護士)

● 治療的司法研究センターYouTube 公式チャンネル「なおみんと学ぶ! TJ 入門」

企画・司会:菅原直美氏(センター客員研究員、弁護士)

▶ 第1回 テーマ:クレプトマニア弁護実践①

ゲスト:林大悟氏(センター客員研究員、弁護士)

https://www.youtube.com/watch?v=HblFOgX1BPQ&t=226s

▶ 第2回 テーマ:クレプトマニア弁護実践②

ゲスト:原裕美子氏(元・マラソン選手)

https://www.youtube.com/watch?v=986zdKgNdvU&t=2s

▶ 第3回 テーマ:触法障がい者の刑事弁護実践①

ゲスト:山田恵太氏(センター客員研究員、一般社団法人東京 TS ネット代表理事、弁護士) https://www.youtube.com/watch?v=M8vP6m-Rx-Q&t=1s

▶ 第4回 テーマ:触法障がい者の刑事弁護実践②

ゲスト:大嶋美千代氏(東京 TS ネット更生支援コーディネーター、社会福祉士)

https://www.youtube.com/watch?v=KnZIFYCIy\_s&t=39s

▶ 第5回 テーマ:刑務所 VS 治療的司法①:罪と罰だけではない世界へ

ゲスト:丸山泰弘氏(センター客員研究員、立正大学教授)

https://www.youtube.com/watch?v=DPX3eRLXfMU&t=2s

▶ 第6回 テーマ:刑務所 VS 治療的司法②:罪と罰だけではない世界へ

ゲスト:クマ氏(当事者)

https://www.youtube.com/watch?v=pp-oHGMIgeE&t=2s

▶ 第7回 テーマ:女性ジェンダーと治療的司法

ゲスト:オーバーヘイム容子氏(ワンネス財団フラワーガーデン施設長)

https://www.youtube.com/watch?v=-NPqjLGHab4&t=1s

▶ 第8回 テーマ:学生サポーターの巻

ゲスト: TJ サポーター生田緑氏 (成城大学法学部4年)、成合南氏 (成城大学法学部4年)、古家春菜氏 (成城大学法学部4年)

https://www.youtube.com/watch?v=Mfs4QLDrp0g&t=1s

▶ 第9回(最終回)

ゲスト:指宿信氏(センター長)

https://www.youtube.com/watch?v=I5iVDwFeftE&t=2s

● 治療的司法研究センターYouTube 公式チャンネル「丸ちゃんの犯罪学入門(仮)」

企画・司会:丸山泰弘氏(センター客員研究員、立正大学教授)

▶ 第1回

ゲスト:荻上チキ氏(評論家、ラジオパーソナリティ、成城大学卒業生)

https://www.youtube.com/watch?v=SCzBFt1Yk9s&t=121s

第2回

ゲスト:阿部恭子氏 (World Open Heart)

https://www.youtube.com/watch?v=RiqhOzx04U0&t=149s

▶ 第3回

ゲスト:高知東生氏(俳優、当事者)、田中紀子氏(公益社団法人ギャンブル依存症問題を考える会代表)

https://www.youtube.com/watch?v=Ovg1eV7QQ74&t=67s

▶ 第4回

ゲスト:風間暁氏 (NPO 法人アスク社会対策部薬物担当、保護司)

https://www.youtube.com/watch?v=oh72pu6mt g&t=56s

▶ 第5回

ゲスト:風間暁氏 (NPO 法人アスク社会対策部薬物担当、保護司)

https://www.youtube.com/watch?v=DeRblcfHaB8

▶ 第6回

ゲスト:中島学氏(前・法務省札幌矯正管区長)

https://www.youtube.com/watch?v=dBiOUSZ69CY&t=14s

● 治療的司法研究センターYouTube 公式チャンネル「DAIGO 先生と学ぶ クレプトマニア入門」 企画・司会:林大悟氏(センター客員研究員、弁護士)

▶ 第1回 テーマ:あの伝説の裁判官も治療の重要性を指摘した!

ゲスト:木谷明氏(弁護士、元裁判官)

https://www.youtube.com/watch?v=MY9PlXMuIwY

▶ 第2回 テーマ:窃盗症の原因メカニズムは?

ゲスト:後藤幸織氏(京都大学大学院情報学研究科准教授)

https://www.youtube.com/watch?v=dolWvJRr78Y

▶ 第3回 テーマ:クレプトマニアの治療法は?

ゲスト:後藤幸織氏(京都大学大学院情報学研究科准教授)

https://www.youtube.com/watch?v=ZbjA726deBg

▶ 第4回 テーマ:司法精神科医に聞く!クレプトマニア

ゲスト: 村松太郎氏 (慶應義塾大学医学部精神神経科准教授)

https://www.youtube.com/watch?v=2hgP5W8CXQU

▶ 第5回 テーマ:クレプトマニアの責任能力をどう考える?

ゲスト:村松太郎氏(慶應義塾大学医学部精神神経科准教授)

https://www.youtube.com/watch?v=bD42hw8CiJk

## (3) 社会人向け講座(「成城学びの森」出講)

- 2019年度秋冬講座「罪を犯した人の立ち直りを考える-問題解決とその方策」
  - ▶ 第1回(10月10日)

テーマ:「連続講座のねらいを語る-「治療的司法」の考え方」

講師:指宿信氏(センター長)

▶ 第2回(10月17日)

テーマ:「窃盗症の人たちと向き合って-クレプトマニア裁判で考えたこと」

講師:林大悟氏(センター客員研究員、弁護士)

▶ 第3回(11月14日)

テーマ:「生きづらさを抱えた被告人たちと関わって-刑事弁護の現場から」

講師:菅原直美氏(センター客員研究員、弁護士)

▶ 第4回(11月21日)

テーマ:「罪を犯した障害者と向き合って-司法と福祉の連携の可能性」

講師:山田恵太氏(センター客員研究員、弁護士)

▶ 第5回(11月28日)

テーマ:「塀の中での取り組み-刑務所における再犯防止プログラムについて|

講師:東本愛香氏(センター客員研究員、千葉大学特任講師)

● 2021年度秋冬講座「罪を犯した人の立ち直りを考える」(オンライン配信)

▶ 第1回(10月1日)

テーマ:「総論:罪を犯した人たちの実像と立ち直り支援に向けた考え方」

講師:指宿信氏(センター長)

▶ 第2回(10月29日)

テーマ:「各論:罪を犯した人たちにはどんな支援が具体的に必要なのか」

講師:指宿信氏(センター長)

# (4) 弁護士会・他大学での講演等

日時	氏名	講演等の名称
2017/3/21	林研究員	さいたま地裁越谷支部 法曹三者刑事実務勉強会「クレプトマニア事件の
		情状立証について」講演
2018/1/31	センター長	警察大学校、東京都調布市「再犯防止をめぐる国際動向とわが国の動き」
		講演
2018/2/20	センター長	弁護士とソーシャルワーカーの協働を考える会「"治療的司法"とは何か:
		刑罰目的司法から更生支援司法への転換を目指して」講演
2018/6/7	センター長	東京三弁護士会多摩支部、東京都立川市「治療的司法とは何か」
2018/7/15	センター長	2018 年度司法修習生集会、京都「治療的司法とは何か」講演
2019/1/10	センター長	日弁連法務研究財団研修「情状弁護の質的向上を目指して」企画協力
2019/1/25	センター長	日弁連法務研究財団研修「情状弁護の質的向上を目指して」企画協力
2019/6/22	センター長	日弁連法務研究財団九州地区研修会「一部執行猶予の運用状況と弁護活
		動」
2020/2/28	センター長	法務研究財団弁護士研修 With 金沢弁護士会 「情状弁護に質的転換を目指
		して」講師
2020/11/20	センター長	法務研究財団オンライン研修 with 広島県弁護士会「情状弁護の質的転換
		を目指して」講師
2021/7/27	林研究員	文部科学省総合教育制作局「教職員等による児童生徒性暴力等の防止等に
		関する法律、教員免許状再授与審査等についてのヒアリング」講演
2021/9/17	林研究員	参議院議員会館(議員対象)「窃盗症に関するレクチャー(UA ゼンセン
		からの依頼)」講演
2021/9/21	林研究員	三重弁護士会「日弁連発展型研修/精神障害者による万引き事件の弁護活
		動」講演
2021/10/19	林研究員	UA ゼンセン「万引き対策の課題について(オンライン)」講演
2021/11/4	林研究員	兵庫県弁護士会「日弁連発展型研修/精神障害者による万引き事件の弁護
		活動」講演
2021/11/12	林研究員	和歌山弁護士会「日弁連発展型研修/精神障害者による万引き事件の弁護
		活動」講演

2021/11/15	林研究員	神奈川県弁護士会「日弁連発展型研修/精神障害者による万引き事件の弁
		護活動」講演
2021/12/7	林研究員	福井弁護士会「日弁連発展型研修/精神障害者による万引き事件の弁護活
		動」講演
2022/2/13	センター長	しまね更生支縁ネット研修会、島根県松江市「"治療的司法"と更生支援」
2022/9/13	林研究員	全国トラブルシューター弁護士ネットワーク「会員向け定期セミナー/万
		引き事件の刑事弁護」講演
2022/10/24	林研究員	旭川弁護士会「日弁連発展型研修/病的な窃盗反復者の弁護活動」講演
2022/10/28	林研究員	広島弁護士会「日弁連発展型研修/病的な窃盗反復者の弁護活動」講演
2023/1/11	林研究員	栃木県弁護士会「日弁連発展型研修/精神障害者による万引き事件の弁護
		活動」講演
2023/5/14	林研究員	NPO 法人陽和「クレプトマニア(窃盗症)真実との向き合い方」講演
2023/5/20	センター長	東京大学法科大学院講義科目「刑事司法のアウトサイダー」講演
2023/9/30	センター長	第 100 回北海道で更生と再犯防止を考える会、札幌市「治療的司法から
		見た更生と再犯防止」
2023/10/17	林研究員	愛知県弁護士会「精神障害者による万引き事件の弁護活動」講演
2023/11/11	センター長	立命館大学土曜講座、立命館大学「刑事司法における脱刑罰処理を考える:
		治療的司法がもたらすインパクト」
2023/12/4	林研究員	青森県弁護士会「精神障害者による万引き事件の弁護活動」講演

## 9. その他

#### (1) 規則等

#### 成城大学研究センター規則

平成29年4月4日制定

(趣旨)

第1条 成城大学研究機構規程第8条第1項に基づいて設置される研究センターの事業については、 この規則に定めるところによる。

(研究センターの種類)

- 第2条 研究センターは、次の2種類とする。
  - (1) 第一種研究センター:複数の研究者が共同で行う研究のうち、研究機構運営委員会(以下 「運営委員会」という。)の議を経て、機構長の指定を受けたもの
  - (2) 第二種研究センター:1人又は比較的少数の研究者が行う研究のうち、運営委員会の議を 経て、機構長の指定を受けたもの

(研究センター長)

- 第3条 研究センターに研究センター長1名を置く。
- 2 研究センター長の選出方法等については別に定める。
- 3 研究センター長は、各研究プロジェクトを代表し、その業務を統括する。
- 4 研究センター長の任期については別に定める。
- 5 研究センター長の委嘱及び解任は、運営委員会の議を経て、学長が行う。 (研究員)
- 第4条 研究センターに研究員を置く。
- 2 研究員は、研究センターが実施する研究プロジェクトに参加する本学の専任教員をもって、これに充てる。
- 3 研究員の委嘱及び解任は、運営委員会の議を経て、学長が行う。
  - (客員研究員)
- 第5条 研究センターの事業を実施するに当たり必要と認められるときは、研究センターに学外の 大学教員及び研究者を客員研究員として置くことができる。
- 2 客員研究員の委嘱及び解任は、運営委員会の議を経て、機構長が行う。 (ポストドクター研究員)
- 第6条 研究センターにポストドクター研究員を置くことができる。
- 2 ポストドクター研究員の職務、勤務条件は、別に定める。

(リサーチ・アシスタント)

- 第7条 研究センターにリサーチ・アシスタントを置くことができる。
- 2 リサーチ・アシスタントの職務、勤務条件は、別に定める。

(本規程の改正)

第8条 本規則の改正は、大学評議会が決定する。

附則

この規則は、平成29年4月1日から施行する。

#### (2) ジャーナル投稿規定

#### 治療的司法ジャーナル論文執筆要綱

#### 1. 執筆者

①国内の大学(短期大学を含む)、大学院の常勤および非常勤の教員、②博士前期課程および博士後期課程の在学者、③大学に所属する常勤の研究職(ポスドク等)、④法曹有資格者、⑤治療・回復・支援に関する職にある者(医療関係者、NPO 職員、社会福祉関係者等)、⑥その他、編集委員会が適当と認めた者。

# 2. 執筆原稿の種類

未公刊の①論説、②研究ノート(事例・症例報告を含む)、③判例研究、④翻訳、⑤講演録、⑥書評、⑦資料に限る。掲載順は、丸数字の順とする。但し、基調講演などを文字起こしした⑤講演録については、この限りでない。多重投稿を禁ずる。

- 3. 原稿の文字制限等
- (1) 邦語に限る。
- (2) 脚注等を含め、上記①論説および④翻訳は 20,000 字程度、その他の原稿は 10,000 字を上限とする。
- (3) 字数制限については、執筆者の申し出により、編集委員会が例外を認めることができる。
- (4) 翻訳権の取得は、執筆者の責任において行うものとする。

#### 4. 原稿の体裁

- (1) 原稿は、MS word に限る。A4 用紙に 40 文字×36 行を 1 頁とし、電子データを提出すること。
- (2) 原稿提出にあたっては、所定の応募用紙に、原稿の種類、氏名、題目(邦文および英文)、所属(所属機関および職位、所属大学院および学年・専攻等)、連絡先(電話番号、E-mail アドレス)を記入したうえで併せて提出すること。
- (3) 引用文献の表記について、編集委員会が編集段階で訂正・統一することがある。

#### 5. 査読

- (1) 原稿の採否については、編集委員会において決定する。
- (2) 掲載にあたり、修正を要求する場合がある。要求に応じない場合は掲載しない。

#### 6. 校正

校正は、原則として初校までとし、誤字脱字の訂正のみを行うものとする。ただし、大幅な変更、書き添え等を必要とする場合には、執筆者の申し出により、編集委員会がその可否を判断する。

7. 盗用・無断使用による責任

- (1) 執筆者は、執筆原稿が第三者である著作者の権利または他人の権利、もしくは名誉・プライバシー等を侵害していないことを確認し、所定の誓約書に署名のうえ、原稿とともに編集委員会に提出するものとする。
- (2) 執筆原稿により権利侵害等の法的紛争が生じ、当センターならびに第三者の権利を侵害した場合には、その一切の責任を執筆者が負うものとする。
- (3) 著作権違反の事実が確認された場合、当該原稿をジャーナルのコンテンツから削除する場合がある。
- 8. 発行回数

本誌は年2回、3月および9月に発行することを原則とする。

9. 締め切り

毎年 6 月末日, 12 月末日とする。

10. 提出先、問い合わせ先

成城大学治療的司法研究センターE-mail アドレス (rctj@seijo.ac.jp) 宛に送信すること。

11. 公開の許諾

成城大学治療的司法研究センターホームページ内で電子ジャーナルとして公開する。執筆者は、電子ジャーナルによる著作物の公開に同意したものとする。

#### 12. その他

- (1) 本要綱中の「編集委員会」とは、成城大学治療的司法研究センター内に設置した治療的司法ジャーナル編集委員会をいう。
- (2) 治療的司法ジャーナルは、編集委員会が本要綱に基づいて編集・公刊する。
- (3) 本要綱は、編集委員会の議を経て、改定する場合がある。
- (4) 著作権に関し、本要綱にない事項については、著作権法に拠るものとする。
- (5) 原稿料は無料とする。
- (6) 抜刷りの著者贈呈は行わない。

治療的司法ジャーナル編集委員会 2017 年 12 月 31 日

# 著作権について

本資料集の著作権はすべて成城大学治療的司法研究センターに帰属する。

成城大学治療的司法研究センター 外部評価報告・活動報告

2024年6月刊行

制作責任者:指宿信(センター長・成城大学法学部教授)

制作担当者:飯野彩、渡邉友美(PD研究員)